

祝 日本学生オリエンテーリング選手権大会

富士山世界遺産のあるまち



富士宮旅館料理組合

◎事務所 富士宮市大宮町2-11

電話 〈0544〉 26-2439

F A X 〈0544〉 26-8439

発行日：2014年 2月 15日

2013 年度  
日本学生オリエンテーリング選手権大会  
ロング・ディスタンス競技部門

# 報告書



開催日	2013年 10月 13日(日)
会場	富士宮市立山宮小学校(静岡県富士宮市)
主催	日本学生オリエンテーリング連盟
主管	インカレロング 2013 実行委員会
後援	富士宮市教育委員会、(公社)日本オリエンテーリング協会
協力	静岡県オリエンテーリング協会、富士宮旅館料理組合、富士急静岡バス(株)、 富士旭出学園、(株)大富士、富士市ホテル旅館業組合

公式 Web ページ：<http://www.orienteering.com/~icl2013/>



# 目次

1. 実行委員長挨拶 .....	1
2. 将来への提言 .....	2
3. イベントアドバイザー報告 .....	6
4. 優勝者コメント .....	8
5. コース解説 .....	10
6. 成績 .....	21
7. 役員名簿 .....	29



# 1. 実行委員長挨拶

実行委員長 松澤俊行

まずは選手権クラス優勝の稲毛日菜子選手と尾崎弘和選手をあらためて称え、祝福します。優勝おめでとうございます。お二人は、厳しいコース設定に応える素晴らしい走りを見せてくれました。そして学生選手権の優勝争いが、全日本選手権にも劣らぬレベルで展開されている近年の流れをがっちり引き継いで、大会の注目度を上げてくれました。その点に関しては、感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。



インカレを終えるといつも、つくづく「組織力の大事さ」を感じます。運営面もさることながら、競技する学生の皆さんの様子を見てみると、その思いは一層強くなります。2013年のインカレロングは、ここ数年では最も早いタイミングの、10月前半に開催されました。その7ヶ月前、「日光所野」の春インカレ閉会式で皆さんの前に立った私は、「準備期間が短い分、新勧(新歓)や練習など、クラブを挙げて計画的に進めてください」というようなことを申し上げました。実際、今回は(今回も)、組織的活動が盛んで、準備を計画的に進める体質が一人ひとりに染み付いている大学の活躍が目立ったように思います。逆に、春からの半年間で、十分な取り組みができていない大学の選手は、インカレ当日も初歩的な物事の対応(例えば、会場に来て初めてSIシステムの使い方を新人に教える、など)に追われており、その分、個々の力が発揮しづらいように見受けられました。来年度もほぼ同じタイミングに、同じ中部地方で(10月12日に、福井県で)インカレロングが開催されます。今回「成功した」と感じた大学も、「失敗した」と感じた大学も、より一層計画的で組織的な活動を進め、インカレという最高峰の舞台で、より一段階高いパフォーマンスを発揮して欲しいと思います。

競技面では明暗分かれたものの、皆さんの会場でのマナーは非常に良いものと感じました。会場で応援可能なエリアをはみ出すこともなく、中にはインタビュー中はグラウンドにしゃがんで、会場中から選手の姿が見える状態になるよう配慮しつつ、選手の声にしっかりと耳を傾けてくれた大学もありました。こうした良い面は、是非とも引き継いで行って欲しいと思います。相変わらず、記念撮影の際の出入りに時間が掛かり過ぎる点については…。まあ、ここでは多くを語らず、今後注目することとしましょう。

以上、実行委員長から雑感を述べました。運営面での反省や、将来につながる提言は、有能な競技責任者がこの報告書中で示してくれています。是非ともこの後のページにお目通しください。

それでは皆さん、3月のインカレで(今度は競技者同士の立場で)お会いしましょう。

## 2. 将来への提言

競技責任者 西村徳真

### はじめに

インカレロング 2013 にご参加いただきありがとうございました。今回の大会で私は公式には競技責任者でしたが、実質的に運営責任者も兼任しており、本大会に最も深く携わっていました。慣例として、将来への提言は実行委員長が記述いたしますが、最も現場に近い場所にいた西村の目からお伝えしたいことを記述いたします。

### 今回実施したことで、今後もぜひ行ってほしいこと

まず、本大会を運営してぜひ次回以降も引き継いで欲しいことを述べたいと思います。

#### 一般クラスの分割基準

今回、一般クラスの分割数を増やしました。分割の基準は要項 2 および 3 に記載した通り、「MUF・WUF クラスに関しては各クラスの出走数が 30～60 名となるように、その他のクラスに関しては同 40～80 名となるように」設定しました。そして、「分割に当たっては、学連・大学の偏りが最小限となるようにしたうえで無作為に配分を行」いました。その結果、MUL が 4 クラス、MUF が 3 クラス、WUL・WUF が 2 クラスに分割されました。

この対応を行った理由は 2 つあります。一つは、選手権クラスの盛り上がりのため、もう一つは、表彰対象者数の適正化のためです。

今まで、申込者多数のクラスについて分割を行うこととしていましたが、その基準は必ずしも明確ではありませんでした。入賞の水準を安定化させることは、一般クラスに出場する選手のモチベーションのためにも重要です。本大会で採用した分割規準は継続的な運用に耐えうるものと考えており、ぜひ次回以降も継続させてほしいと考えています。

#### 選手権クラスのスタート時刻の繰り下げ

前述の内容に関連して、選手権クラスのスタート時刻を、例年から 1 時間遅らせ、一般クラス 10:00 からに対して選手権クラスは 11:00 からとしました。一般クラスの分割との合わせ技により、選手権クラスのフィニッシュでは、序盤から盛り上がり最高潮に達していました。

むしろ従来が一般クラスと同じ時間帯であったことが不思議なくらいですが、日没時間との兼ね合いの中で安全な対応が取られていたのではないかと思います。しかし、今回は撤収だけでなく、翌日のためのコントロール移設も無事に終えられており、決して無理のあるタイムスケジュールではなかったと考えています。

#### レシートプリンタによる速報ボード印刷

計センチーフの大場殿のご協力により、速報ボードの速報性と準備の簡素化がさらに進展しました。2011 年度より開始された速報ボードのマジックテープ化により、速報性は格段に上がっていましたが、今回は、事前に選手の名前と大学を貼り付けておくことなく、ボードに貼り付ける文章そのものを打ち出す方式を採用しました。その結

果、速報性がさらに上がり、しかも事前準備および当日の運営人員を大幅に削減することができました。

室内での演出を行う場合は Mulka によるプロジェクター出力が簡単に利用できますが、インカレではやはり屋外での演出が現実的です。2012 年度から採用されたオンラインコントロールとともにぜひ今後も活用してもらいたいと思います。

### インターハイ上位者の選手権クラスへの招待

今回、9 月に実施されたインターハイにおいて男子の上位者 3 名、女子の上位者 1 名を本大会併設の MEC クラス、ならびに WEC クラスに招待しました。さらに、演出部門に東海中学・高校生に協力してもらおうなど、中高生との連携を意識しました。成績優秀者として招待を受けるということはステータスになりますし、インカレの空気を中高生のうちから味わってもらうことは、その後の競技のモチベーションのためにも大きな意味があるものだと考えています。

今後、「インターハイで入賞したらインカレの招待が受けられる」ということが中高生にとっての新たなモチベーションにつながるように、ぜひ今後も継続していただきたいと考えています。

### コラボイベントについて

今回、併設大会と翌日のイベントを「奇跡の森エクストリームミドル」と称し、開催しました。目的は「併設大会もしっかりしたイベントを開催する」というメッセージを発することにより、学生以外の集客ならびに学生の 2 日間滞在を狙ったものです。今回に関して言えば、十分な結果が得られたとは言い難いと考えています。

というのも、2 日目の大会の参加者数は約 200 名。単日で見るとほとんど利益に貢献していません。つまり、1day イベントのためにあれだけ広大な地図を作ってしまった、ということになり、費用対効果は決して良くありませんでした。

ロングは他の競技形式に比べて圧倒的に広い範囲を調査しなければなりません。そのため、きちんとそれに見合う収益源を確保することが必須です。過去には、中日東海大会と併催したり、全日本リレーや 7 人リレーと連日のイベントにしたりした例があり、実際その場合会計面では成功しています。今後についてもロングに関してはコラボありきで考えるべきだと考えます。

### 宿泊取りまとめについて

当初、実行委員会として宿泊斡旋は行わないつもりでした。しかし、日本旅行の小林様からの助言で「西の家」に打診したところ、かなりいいお返事を頂いたため、方針転換しました。要項の内容と異なることとなり、一部混乱をお招きしたかと思います。申し訳ありませんでした。

それでも、そのような転換をした甲斐は間違いなくあった、と考えています。今回のイベント 800 人が宿泊できる場所を大会会場近くで確保するというのは並大抵のことではありません。まして巨大クラブでは、特に調整が難しくなります。実際今回も富士宮市内では収まりきらず、富士市旅館組合にまで頼み込んで確保してもらいました。

今回の方法は、以下のような手順を踏みました。

前年の実績から今年の需要数を予想し、その数で旅館組合を通して押さえてもらう。一律料金の設定も一緒にお願する。

→エントリー時に宿泊希望を一緒に取る(本番 5 週間前)

→大学クラブごとの宿泊希望数を組合に伝え、配宿と正式予約を依頼する

→配宿結果を公開

→その後のやり取りは、キャンセルを含めて全て大学と宿の間で直接行い、実行委員会は関知しない

この方法を取ったことで、実行委員会の事務手数は最小限に抑えられました。今後もインカレの参加者数は多くなることが予想されるため、各大学渉外担当者の負荷軽減、地元との連携作り、そして学生の利便性と宿泊料金抑制のため、今後も実施を検討してもらいたいと考えています。

## 渉外について

今回の地元渉外活動はかなり慎重に行いました。「奇跡」というトレインは、他の富士地区のトレインと比較して民家が入り組んでおり、地元への負荷が特に大きいと考えられたためです。

区長さんへのご挨拶や官公庁への渉外など、一般的な渉外活動は小泉殿に行ってもらい、マッパーである西村が、トレイン内のすべての民家にご挨拶もしくは告知ビラを撒いて回りました。このような上からと現場からの両方向の渉外活動が噛みあい、大会直前には「無事開ける」という確信めいた感覚を持つことが出来るようになりました。

渉外活動をどこまでするかは各地域の事情を十分に踏まえた検討が必要ですが、地元に入って肌で感じられる情報の重要性は強く感じました。今後渉外トラブルで不幸なことが起こらないよう、地道な活動をぜひ進めてほしいと考えています。

また、学生の皆さんにおかれては、このような多くの地元渉外の上で成り立っている「奇跡」トレインを末永く使用できるよう、静岡県協会の指示を守り、地元住民の方への配慮を忘れずに利用するようお願いいたします。

## **今回行えなかったけど、次回以降実施を検討してほしいこと**

### 学生向け N クラスの設置

今大会のリザルトを改めてみると、一般クラスにおいて、完走できていない人(ミスパンチ・飛ばしを除く)や完走していても大幅に時間がかかっている人が無視できない人数居ることが分かります。考えてみれば、インカレロングは、ほとんどオリエンテーリングの経験がない新人が初めて出る、ということが少なくありません。彼らにオリエンテーリングの魅力を正しく伝え、かつ選手権の応援に参加してもらうためにも、併設クラスの N コースをインカレクラスにも開放して良いのではないかと考えます。

一方で、今までそのような対応がなされなかった背景には、新人がインカレロングで F クラスを完走できるように十分な指導を各大学クラブにおいて行うべきである、という考え方があったとも推察できます。新人にインカレを堪能してもらえるよう、今後より一層上回生が様々な機会を利用して新人を指導してあげるようお願いいたします。

## **プロ運営への挑戦**

今回は、「プロ運営」を目指しました。すなわち、人員を最小限に絞って効率的に運営を行い、余剰金は運営者で分配してしまうという方法です。インカレは学生オリエンティア最大の目標大会としての地位を確立しています。それは大変喜ばしいことですが、その分運営者にかかる負荷は、時間的にも精神的にも多大なものとなっている点は否めません。ボランティアとして働くにはあまりにも大きなプレッシャーの中相当なエネルギーが注入することが必要になってしまっています。

また、インカレは運営者の数が多く、しかも 1 度限りのメンバーで行うことが運営負荷に拍車をかけてしまっています。インカレに限ったことではありませんが、大会の規模が大きくなればなるほど、責任者・チーフの数が増えれ

ば増えるほどメールの数が膨大となり、全体像を把握するのが困難になります。

しかし、インカレは十分な参加費収入が見込める大会です。そもそも、効率よく運営をすれば十分プロ運営が成り立つのではないかと、そういう仮説を立証しようとしたのが本大会でありました。

結果として、この試みは完全ではないにせよ、一定の成果を出せたと感じています。

まずメールの本数は劇的に減りました。そもそもメーリングリストを作っていません。確かに西村がやり取りしているメールはかなりの数に上っているのですが、西村以外が受け取っているメールの数は実に少ないです。平のパート員に至っては、ほとんどミーティングや当日の集合に関するメールしか見ていないのではないのでしょうか。

集まった回数も驚くほど少ないです。立ち上げ時の下見(2名)、第1回試走(10名)、第2回試走(4名)、チーフ会議(10名)、そして前日と当日です。備品準備のためにわざわざ一同に会することをせず、各自に割り振られたものをそれぞれが準備して持ち寄りました。宿泊を伴ったのも、大会当日だけです。

一方で弊害も少なからずありました。まずエントリー処理の手間を西村が過小評価していた上、時期による仕事の重なりを十分に予測できていませんでした。要項3の作成時期が最も大変で、エントリー処理をしながら、要項3を作りながら、パートマニュアルを作りながら、コースの最終調整をしていました。要項3の発行が一日遅れ、しかもスタートリストに致命的誤り(WUSクラス出場者の大学名がことごとく誤っていた)を発生させてしまったことや、マニュアルの完成を大会直前まで引きずってしまった裏には、このキャパシティオーバーがありました。

全体として見ると、さすがに今回は西村に仕事を集めすぎでしたが、「少人数で効率よく」という方針に誤りはなかったという確信を得ることはできました。各仕事をどのような組み合わせで何人に振るのがベストなのか、仕事の振る場合のインターフェースをどうするかをもっと練り上げることができればよりスマートな運営が実現できると考えています。

## 会計について

約200万円超の黒字となり、この黒字額から西村の地図調査ギャラと各運営者のギャラが支払われました。プロ運営として十分な金額となるためには、正直もうあと100万円程度上積みしたかったというのが本音です。今回は会場の制約から、仮設トイレで25万円のコスト増、バス輸送で35万円の赤字を計上したことが大きく、また前述したとおり2日目のコラボイベントが会計上の貢献をもたらさなかったことが反省点と言えます。

オリエンテーリング界の文化からすると、運営者が大きな利益を得ることはあまり歓迎されないところがあります。しかしながら、前述したとおり、インカレを運営するというのは、競技的な品質の保証、多数の参加者への対応、そして確実な大会成功を求められる非常に大きな責任を伴うものです。運営のプロ化は、そのインカレを継続開催するための一つの答えであると考えます。学生諸氏においても、このような事情を鑑みて理解と協力をお願いする所存です。

### 3. イベントアドバイザー報告

イベントアドバイザー 田濃邦彦

別ページに示されているように、今回のインカレは、地図作成とイベント運営のプロフェッショナル・西村徳真氏を中心に、高い専門性を持って、効率的に行われた。自分がイベントアドバイザーに就任し、インカレ実施規則に基づいて各項目をチェックしたのは、実質、インカレ前の数ヶ月間に限られる。ここでは、その就任の経緯と、果たした役割を示し、報告に代えたい。

#### 就任の経緯

長年のよしみがあり、かつてのクラブメイトでもあった実行委員長の松澤俊行氏から、インカレロング 2013 への協力の依頼が本格的になされたのは、大会 2ヶ月前の 8 月であった。9 月開催の中日東海大会でも運営に関わっていた中ではあったが、かえってスケジュールの見通しが立てやすかったため、依頼を引き受けることとした。

意外だったのは、「実行委員ではなく、イベントアドバイザーで」との依頼だったことである。もちろん、静岡県協会理事の一人として、今大会のことは計画段階から知っていたし、組織作りの方針と、仕事の進め方も理解していた。松澤氏からもあらためてスケジュールや役割について説明があり、自分にも、今からでも可能と判断し、イベントアドバイザー就任を受諾した。

インカレのイベントアドバイザーは、ルール上は日本学連の技術委員から選出される。しかし今回はそれがままならなかったため、変則的な措置を取ったという。(その「変則」が、近年はしばしばあるらしいが。) 人員不足による多忙など、技術委員の都合もあるだろう。また、インカレが他の大型大会との併催で行われるケースが今後もあるはずである。その際は、「他の大型大会」の方をコントロールする有識者(コントローラー)にインカレのイベントアドバイザーを兼ねてもらおうようにした方が良いだろう。となると、イベントアドバイザーに関するある種の「規制」は、いまや緩和が求められていると考えられる。この点については、今後学連で本格的な検討がなされると聞いているので、注視したいし、必要であれば、自分の経験に基づいたアドバイスも適宜行なっていきたい。

#### イベントアドバイザーの役割

インカレ実施規則を確認し、実行委員会側からも要請を受け、一通りのチェックを行なった。繰り返しになるが、運営の中核は、プロフェッショナルとエキスパートで占められていた。実行委員会内で、お互いのチェック機能が十分に働いていたため、例年のイベントアドバイザーに比べたら、負担は随分軽かったと思われる。

特筆すべき点が少ない中、自分がこの役割にいたことが、組織にとって良かったと感じられた場面もある。地元静岡県協会の理事かつ、同一地区・旧地図で開催された静岡大学大会の運営者であったため、静岡県内でオリエンテーリングイベントを開催する際や、「奇跡の森」エリアのテレイン使用上の留意事項を、過去の経緯に基づいてアドバイスすることができた。一般論として、それなりに経験を積み、見識もある関係者にイベントアドバイザーを依頼することは、不慣れな若手技術委員に依頼するよりも合理的な面が多い。前項と重なる部分もあるが、大型大会の運営で必要とされる経験や見識は、引き継がなければならない。(技術委員会という一つの組織からイベントアドバイザーを選出し続けることの意義はこの点にある、との説明が大西康平技術委員長からもあった。)

その仕組みは維持しつつ、今後も諸事情を考慮した上でイベントアドバイザーの「適任」がリストアップされ、選出されるよう望みたい。

## プロ主体による運営と従来型運営との棲み分けについて

今回の大会は併設大会含め1000人規模の大会であった。インカレということも考慮すると運営役員は100人は必要というイメージが自分の中にあったが、事前準備で20人程度、当日の運営も40人程度という体制であった。また西村氏の報告にもあるとおり、事前準備で役員全体が集まる回数も数えるほどであり準備作業の多くを西村氏が手掛けていたため、役員全体の負荷は大会期間中を除くとかなり少なかった。

インカレの運営は若手OBを中心に実行委員会を組織し準備されるが、平均すると2年に1回は関東地区に運営が回ってくるなどあり、数年に渡って連続して役員を引き受けるOBも少なくない。定期的に、今回のようなプロ主体の運営体制を挟むことにより、従来のように多くの役員が本業の合間に時間を割いて運営準備をする負担を減らすことが可能と思われる。(インカレ運営のノウハウ継承との兼ね合いもあるので毎年というのは難しいと思う。)ただし、プロ主体による少数精鋭の運営においても、負荷が少数に偏りすぎると病気や事故など不慮の事態が発生した場合に回らなくなる。今回はそのような事態はなかったが、西村氏の作業負荷はかなり大きかった。今後また今回のようなプロ主体の少数運営を行う機会がある場合には、一部の人員に任せきりにせず、進捗の把握やフォロー、分担の分散を行う必要がある。

以上、簡単ではあるが、イベントアドバイザーからのコメントを遺した。大きなトラブルもなく、大会を終えられたことをあらためて喜ばしく思いたい。

最後に、「大会運営を通じて得るものは多い」ということもあらためて強調したい。自分自身、今回はプロフェッショナルやエキスパートの仕事の進め方が大いに参考になったと感じた。どんな規模でも良いので(大会ではなく練習会でも良いので)、イベントの企画運営に積極的に関わるよう、学生の皆さんにもお勧めしたい。学生時代から地域クラブへ加入することも一つの手段だろう。先達たちの経験や見識に触れておくことは、間違いなく競技者としてもプラスになる。そして、学生以外の関係者の目をインカレに向け、インカレを一層盛り上げることにもつながるはずである。

## 4. 優勝者コメント

### 2013 年度 男子選手権者 早稲田大学 3 年 尾崎弘和

今回のインカレロングは優勝することができました。まず、今回のインカレロングを開催してくださった皆さん、早稲田のOB、OG、現役の方々、私を応援してくださった方々にお礼を言いたいです。ありがとうございました。

今年のインカレロングは私にとって二つの意味がありました。一つは、去年9秒差でなれなかったインカレチャンプの座を必ずつかむこと、長く遠ざかっていたインカレの優勝カップを早稲田に持ち帰ることでした。

私は、去年のインカレで負けて以来、今年のインカレに対しては特別な思いを持っていました。自分にとってインカレロングはあと2回しかない、去年8秒差で負けた真保選手に勝てるロングはこれで最後と思いトレーニングを積んできました。

レースは落ち着いて入れました。全体で無理して走りすぎず、ナビゲーションにゆとりを持ちながらメリハリをつけて走れました。終盤で、優勝タイムを切りそうだった際も、最後までナビゲーションに手を抜かず走りきれました。最初から最後まで集中したレースができ、その結果が優勝だったのだと思います。

レースが終わったときも、自分はある程度いいレースができたと思っていましたが、優勝できたとは思っていませんでした。優勝が決まった瞬間は、ここまで頑張ってきて良かったと思え、すごうれしかったです。特に早稲田の方々や、今まで支えてくださった方々はもちろん、中高のチームメイトの人たちにも祝福してもらえたのは、そこが自分の原点ただだけに格別でした。

私のインカレはあと3回あります。しかしもう3回しかありません。その3回のインカレの舞台で、再びこの栄光を勝ち取れるように精進していきたいと思います。皆さん応援よろしくお願ひします。

最後に、全国のライバルたちと次のインカレでも手に汗を握る戦いができるのを楽しみにしています。頑張っていきましょう！



## 2013 年度女子選手権者 お茶の水女子大学 3 年 稲毛日菜子



今回のインカレは初めて「優勝」を目標にするとはっきり口にして臨んだインカレでした。今までは結果にこだわりオリエンテーリングの楽しさを見失うことを恐れ、この2文字を目標として口に出すことを避けてきましたが、去年の夏からの約1年間で国内外多くの大会や遠征に参加し経験を重ねた今はどんな事があってもオリエンテーリングを好きで楽しむ気持ちは消えないという自信を持てるようになりました。と同時に、目に見える結果という形で、応援して期待して下さる方々に感謝の気持ちを表したい、後輩達にオリエンテーリングの楽しさとかインカレの熱さとかを少しでも伝えられればという思いをもりました。

そんなこんなでいろんな気持ちがあったりしましたが、レースはいつもどおり次のコントロールだけに集中し、ライバル達に負けないう攻めた走りが出てとても楽しかったです。アップが少ないコースでどんどんスピードを上げたため珍しくラスポゴールでダッシュができないくらいに疲れていました。それでも最後まで全力で走り切れたのは、山の中からも聞こえた会場での応援があったからです。もちろん完璧には程遠いですが自分でも納得できる走りで優勝をつかみ取れたのは初めてで、たくさんのおめでとうの言葉を頂きながらその喜びを噛み締めることができました。ありがとうございました。

次の春インカレは、私にとって勝負所だと思います。違うことに打ち込む中でどれだけ1回1回のトレや練習会を大事にできるか。けれどやっぱりインカレのエリートを走るからにはそれにふさわしい走りをしたいので、自分に厳しく持ち前のオラオラ精神で冬を乗り越えていきたいです！

最後になりましたが、お忙しい中準備や運営をして下さった実行委員とその関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

## 5. コース解説

コースプランナー 木村洋介

### はじめに

インカレチャンプとは何か。勿論、「インカレ選手権を最も速く走った者」である。しかし、自分が設定したコースでそのインカレチャンプが決まる以上、それだけでは定義が不足している。そのため、インカレチャンプに値する選手像を自分なりに定義し、それを決めるのにふさわしいコースを設定した。

### コースの全体設計

スポーツ全般で、「心・技・体」という言葉が使われる。オリエンテーリングというスポーツ、それも「山宮・北山」というテレインで開催されるロング競技における「心・技・体」とは何かを考えてコースを設定した。

- ・体:「体力面を問う」というと、日本のオリエンテーリングではどうしても斜面を思い浮かべてしまうが、本テレインはかなり平坦である。そこで、「高速で長時間走り続ける」ことを問うようにした。このため、一部のアクセントをつける箇所を除き、足元の悪いエリアは排除した。走れてしまうが故に苦痛、という感覚を味わっていただけたなら狙い通りである。
- ・技:オリエンテーリングの技術というと「正しく辿る」ことも思い浮かぶが、それを主に問うのはミドル競技であり、ロング競技の醍醐味はルート選択にある。本テレインは360度どの方向にも進める特性があり、それを活かして様々なタイプのルート選択を問うレグを組み込んだ。また、ロング競技だからといって「ロングらしい」レグのみの構成とはせず、3割程度はミドル競技的なレグも組み込んだ。これは、「ロング競技は個人競技の最高峰であり、全ての素質が問われる」という考えによるものである。
- ・心:長丁場のレースで冷静さと気力を終始保てるかを問い、平常心を崩しにかかるようなレグを意図的に組み込んだ。スタート前の緊張が解けないまま序盤でミスをする、ミスをした際に怯んでしまい走れる区間なのにスピードを出さない、中盤に疲れが出てきて走れる区間なのに走るのが苦しくてやめたい、簡単だと調子に乗っていたら大ミスする、などということがあればそれらは全てプランナーが仕組んだことである。

これら全てを高レベルで求める方針とし、ミスなく走れる選手がいれば優勝設定時間を大きく切ることも可能だが、実際は完璧な人はいないため優勝設定時間程度になる、という考えでコース距離を調整した。

## 各コース詳細解説:ME

※筆者の手元にルート図があるのは上位 6 名と 7 位の前田、8 位の渡仲、及び 7 位相当のタイムで失格となった佐藤の 9 名分である。レグによっては他の選手がトップラップを獲得しており、下記解説に記載がないルートが速かった可能性もある。

	尾崎弘和	1:18:17	早稲田3
	菅野敬雅	1:22:06	東北4
	真保陽一	1:22:52	東京4
	杉村俊輔	1:24:26	東北3
	深田恒	1:24:37	東京2
	福井悠太	1:25:15	東京2

### [△→1]

スタート直後、落ち着いてレースを開始できるかを問うレグであり、難易度は低い。

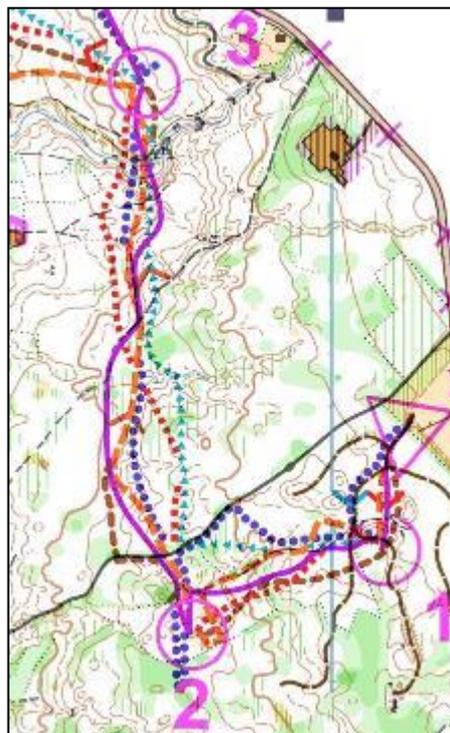
コース設定時は林業道がなかったため直進ルートを想定していたが、道を回っても大差ないであろう。上位選手は全員難なくこなしている。

### [1→2]

△→1 から一転、慎重さを求めるレグとなる。下りで植生も良いためスピードを出せてしまうが、地図を読めていないと数分単位のミスを起こし得る。実際、20%の選手が 2 分以上のミスタイムを出している。

直線的なルートをベストルートと想定しており、直進しながら細かい尾根の形や植生界を見極めて進めば十分対応可能。リスクを回避するなら、レグ線に並行する切り通しをたどり、ヤブのかかったピークの手前から真南にアタックするのも良い。

トップラップは直線的なルートを採用した深田で 1:48、北からアタックした尾崎が 1:52 と続く。真保は一旦現在地を見失ったのか 3 分半のミスタイムを出し、この時点では積算 52 位になっているが、ここから粘り強く順位を上げることになる。



### [2→3]

斜面上のどの高さを進んでいくか、及び 3 ポ直前の川をどこで渡るかということを考えさせることを企図したレグである。

上位選手は皆似た発想であり、2 ポから脱出して道路を渡った後、傾斜変換の下側を北上し、3 ポへは真南からアタックするというものである。

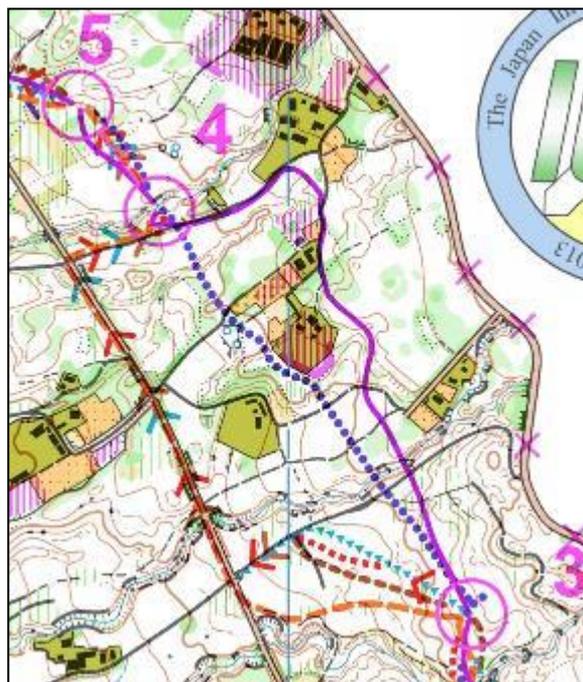
もう一つ選択肢として考えて欲しかったのが、東寄りのルートである。渡河点を 3 ポの真南とすると川べりの斜面がきつく、渡河の後に登山も発生する。このため、3 ポの南東側で渡河した方が若干速いと想定していた。

トップラップは尾崎で 4:43、真保が 4:52 と続く。菅野と福井は、ルートミスは見受けられないが手続きに時間がかかったのか、1 分程度のミスタイムを出している。

### [3→4]

ルート選択は主に2つで、足元が若干悪いのを我慢して直線的に進むか、南西側の主要道路から回りこむかである。うまくいけばどちらも大差ない想定である。

トップラップは道回りを選択した杉村で4:26、高橋(ルート不明)が4:28で続く。直線的なルートを選択した真保は4:42。尾崎は北東に回り込んだルート選択の影響か、1分のミスタイムを出している。



### [4→5]

簡単なレグであり、解説は不要であろう。上位選手は全員難なくこなしている。

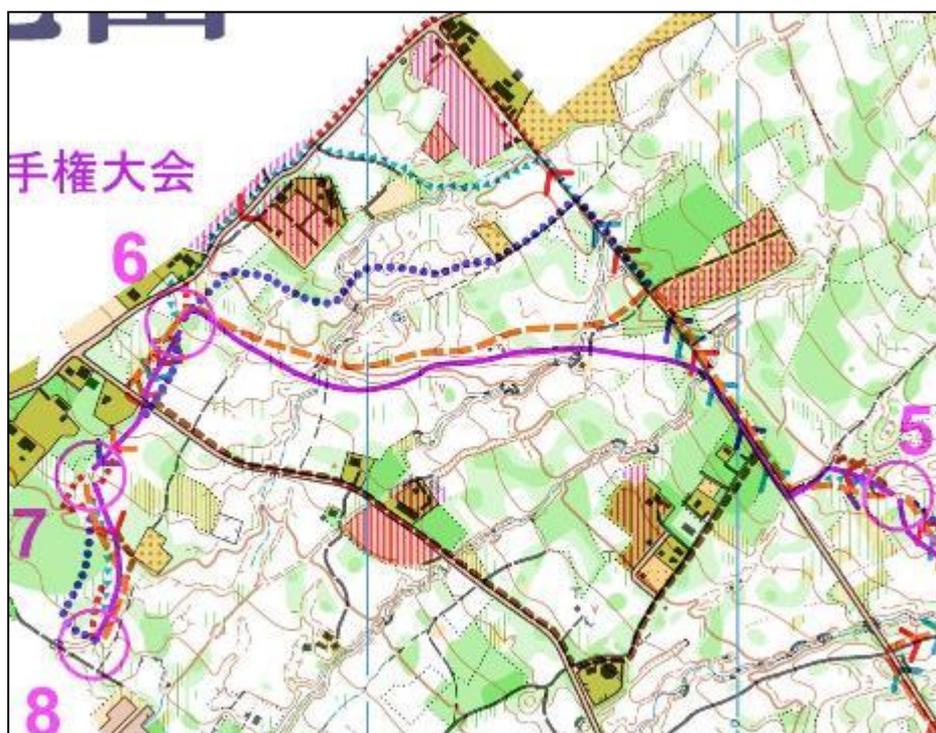
### [5→6]

5ポから脱出後、レグ線に近い箇所を傾斜変換を頼りに進むのがベストルート、南側の道路へ迂回するルートもあり、という想定で設定したレグである。選手によっては北側の道路を迂回した者もあり、プランナーが想定していなかったルートではあるが確かにそれもありだと気付かされる。

トップラップはレグ線に近いルートを採用した菅野で6:41、田中(ルート不明)が6:48で続く。北の道回りを選択した深田が6:55で3位、南の道回りを選択した福井が6:57で4位であり、結果としてはどのルートも大差なかったということになる。

### [6→7]

ミドル競技的なショートレグである。主要道路に出た後、方向を合わせて下っていくだけであるが、7ポ的位置にはハッチがかかっており、油断していると見過ごして通り過ぎることもあり得る。深田はここで2分のミスタイムを出している。



### [7→8]

連続してショートレグである。Cヤブを回避しながら進行方向を変えるだけである。直線的なルートを採用してCヤブを通り抜けた真保は1分のミスタイムを出している。

### [8→9]

直線的なルートがベストルートだが、途中のチェックポイントが曖昧になりがちなのでリスクを避けて南の道を回るのもありという想定で設定したレグである。

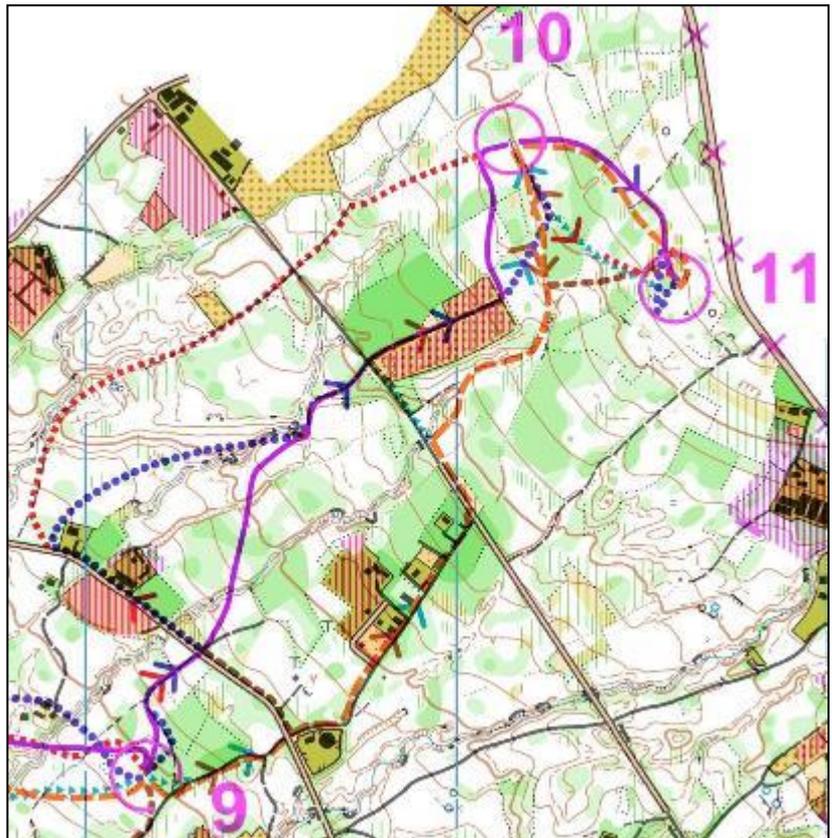
トップラップは細川(ルート不明)で 3:04、その後続く尾崎・杉村・佐藤はいずれも直線的なルートを採用している。南回りのルートを選択した福井は 3:45。



### [9→10]

ロングレグでいくつかのルートの選択肢が見えるが、レグ線に近い部分是不整地で植生も悪いエリアが続き、登りでもあるためスピードが出ない。このため、9 ポから東へ脱出した後にひたすら道を走るのがベストルートという想定レグである。アタックは南からと西からが考えられ、西からアタックするほうが簡単ではあるが遠回りをする必要があるため遅い。

トップラップは糸賀(ルート不明)で 7:05、プランナー想定道走りの杉村が 7:06、同じく福井が 7:22 と続く。レグ線に近いところを通り抜けた尾崎は 7:37。不整地の渡り方に難のあった真保と、西へ大きく迂回するルートを採用した深田は 1 分半のミスタイムを出している。



### [10→11]

レグ線上には C ヤブエリアがあり、上から迂回するか下から迂回するか、下から迂回すると距離・アップともに損するので上回りが正解、ということ想定したレグである。

しかしトップラップは C ヤブを我慢して抜けた杉村で 2:25、堀江(ルート不明)が 2:29、上回りルートの尾崎が 2:39 と続く。

### [11→12]

本コース最長のロングレグである。とは言ってもルート選択の幅は多くなく、おおよそ 3 系統である。北西から南東に伸びる 2 本の主要道路のうち、①南西側の主要道路を使う ②北東側の主要道路を使う ③北東側の主要道路を使うが、立入禁止で描かれた私有地付近で距離が伸びるのを避けてショートカットする といったところである。

トップラップは①を選択した杉村で 8:51、堀江 (ルート不明)が 9:00、③を選択した真保が 9:20、②を選択した深田が 9:23、①を選択した菅野が 9:24 と続く。

#### [12→13]

長い道走りのレッグから一転、コントロール位置の地形が曖昧で植生も悪く、スピードの切り替えを課題として設定したレッグである。

直進すると非常にリスクが高いため、12 ポから一旦真南に進み、私有地の近くを通り抜けた後、細かい尾根・沢の形をチェックしてアタックするのをベストルートとして想定した。

トップラップは細川で 2:08、真保が 2:09、尾崎が 2:23 と続く。深田は直進に失敗したのか 2 分半、杉村は一旦東の小道に出てしまった後さらにアタックミスをしており 4 分のミスタイムを出している。渡仲も 2 分のミスタイムを出しており、積算 4 位から 9 位となり、入賞圏外となった。

本レッグで大幅にミスをした選手が多く、38%の選手が 3 分以上の、23%の選手が 5 分以上の、14%の選手が 10 分以上のミスタイムを出している。スピードの切り替えというのはよくある課題であり、本レッグについても地図を見れば「いかにも怪しい」と感じ取れるものであったため、ここまで極端な結果が出たのは意外であった。

#### [13→14]

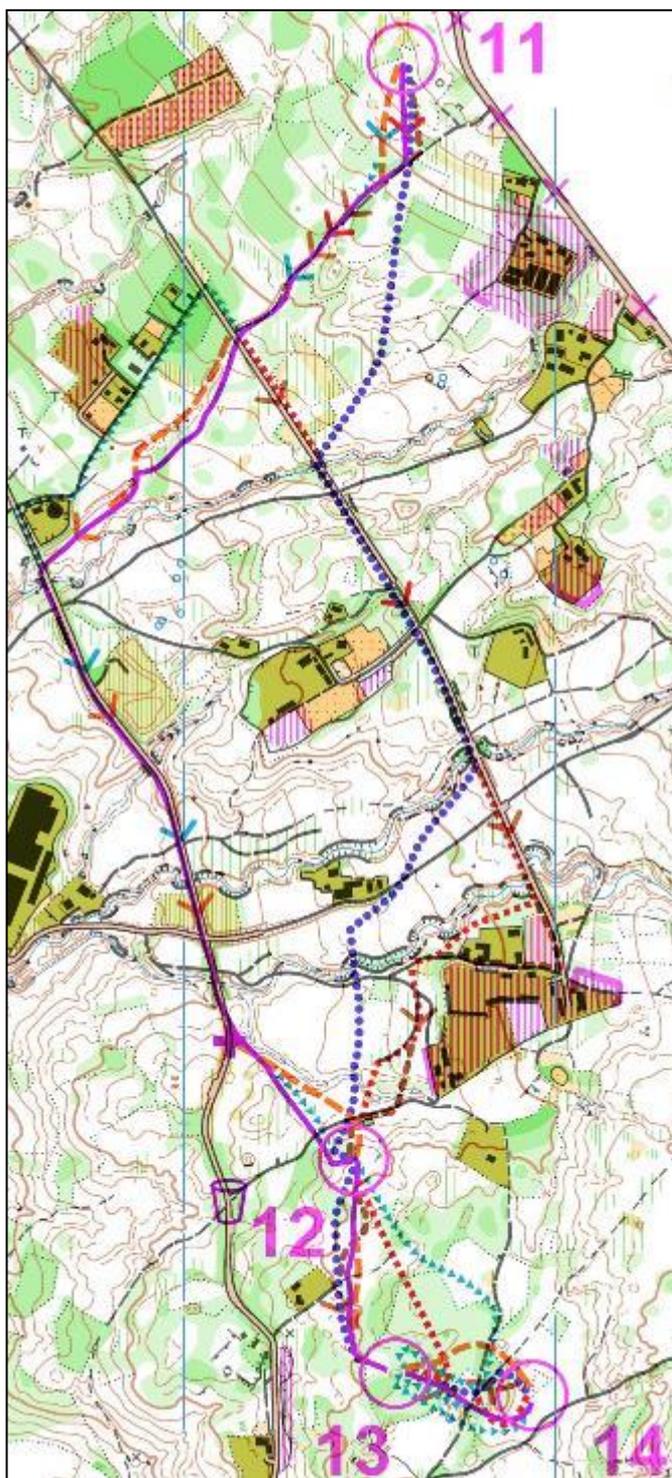
直線的に脱出した後、ピークを左右どちらから回り込めば良い。難易度が低いレッグではあるが、13 ポからの脱出の際に注意散漫になっていると、秒単位のミスは誘発される。

トップラップは杉村で 1:18、細川が 1:31 で続く。

#### [14→15]

直線的に進むとアップも少ないが斜面がややきつく、コンタリングし続けるのはどうかという判断を迫るレッグである。それでも北東に伸びる小径を使って東側に迂回してアタックするのは距離が伸びて損するかという想定であったが、実際は東側へ回った方が少し速かったようだ。

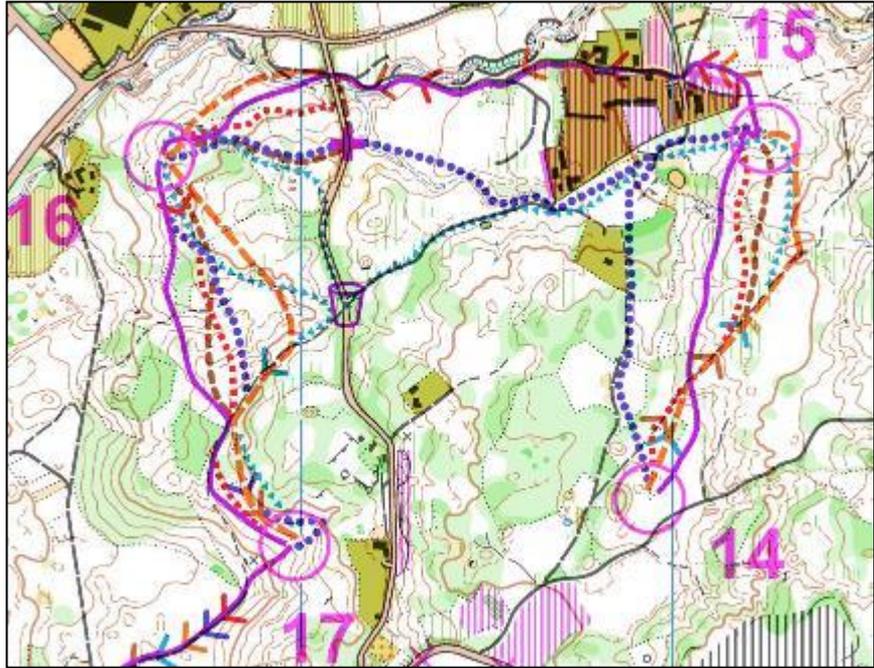
トップラップは東側に迂回した佐藤で 3:03、同じく菅野が 3:15 と続く。西側へ迂回した真保が 3:40 で、最も直線的なルートを採用した尾崎は 3:44 であった。



### [15→16]

ルート選択のレグである。15ポから北へ脱出した後に道路を辿って主要道路との交点付近からアタックするルートと、15ポから西へ脱出した後で川沿いに救護所へ出てきてアタックするルートの2ルートを想定したものである。

トップラップは北回りのルートを選択した尾崎で 4:03、同じく深田が 4:11 と続く。南回りのルートを採用した真保は 5:06。杉村は南に寄り過ぎたルートを採用したため 1 分半の、福井は北回りのルートを採用したが救護所に寄ったため 1 分のミスタイムを出している。

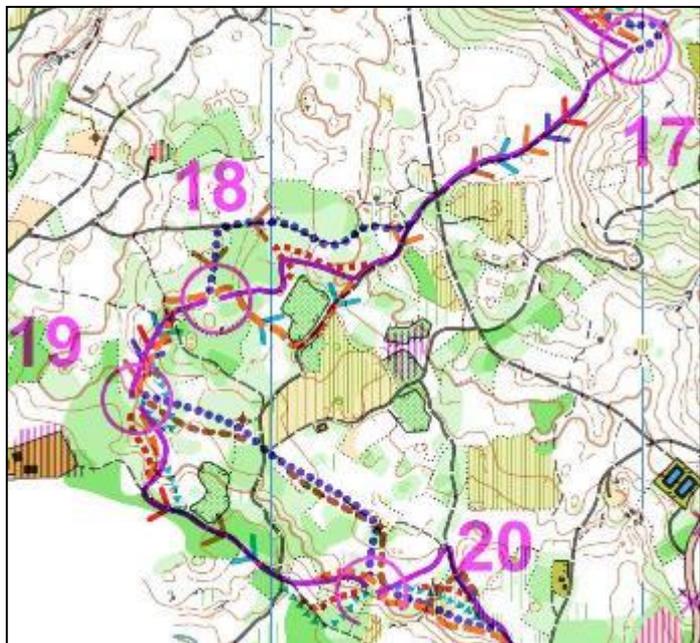


### [16→17]

比較的長い距離をコンタリングするレグである。植生に邪魔されたり地形に流されたりすることもあり、方角を意識しながら進む必要がある。

上位選手でも辿った位置にややバラつきがあるが、まずレグ線 3 分の 2 程度のところにある小径に乗るという意識は同じで、アタックはコンタリングと直進で判断が分かれた。なお、プランナーが想定したルートは、上位選手のものとは異なり、16ポからひたすら真南に進み、C ヤブと C ヤブの間を抜けた後、南東に方向を変えるというものであった。また、選手によっては一旦東側の主要道路に出て真北からアタックする者もいる想定であったが、上位者にはいなかった。

トップラップは、尾崎・深田・細川が 3:47 で同タイムである。杉村は 16ポ脱出時に東へ流されて 1 分半のミスタイムを出している。



### [17→18]

道に脱出して辿った後、北からアタックするか、南東からアタックするかを選択するレグである。

トップラップは北からのアタックを選択した真保で 3:25、細川(ルート不明)が 3:32、南東からのアタックを選択した菅野が 3:47 と続く。真東から B ヤブの中を縫うようにアタックした尾崎は 4:00、深田は 4:04。

### [18→19]

ショートレッグで、鉄塔から方向を合わせてアタックするのみである。

杉村はここでアタックミスをして1分半のミスタイムを出している。

### [19→20]

レッグ線上にはヤブエリアがあり、これを北から迂回するか、南の道から迂回するかの選択となる。うまくいけばどちらも大差ないという想定であった。

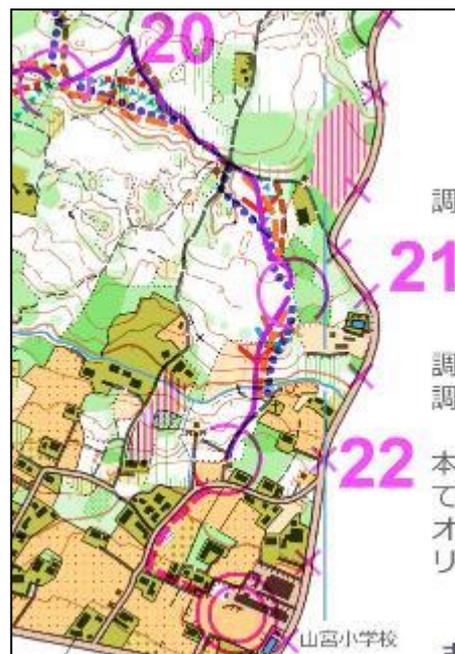
トップラップは北回りを選択した真保で 2:50、南回りを選択した杉村が 3:07 で続く。前田がここで2分のミスタイムを出しており、積算4位から入賞圏外となった。

### [20→21]

上位者は細かい違いはあるが全員似たようなルートを探っている。20ポから南東に脱出する選手もいる想定であったが、上位者にはいなかった。

### [21→22][22→◎]

これは解説不要であろう。



## 各コース詳細解説:WE

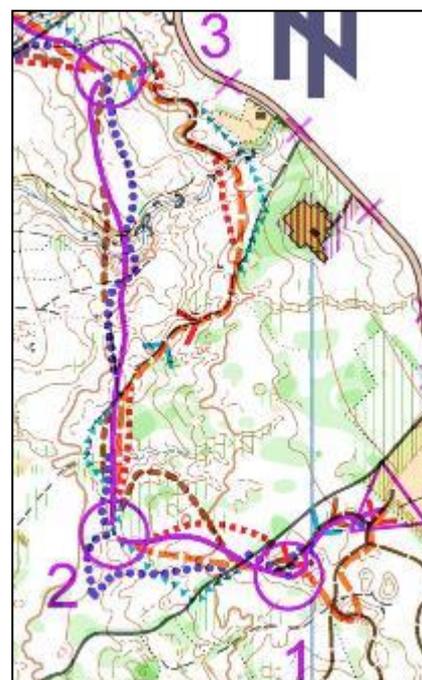
	稲毛日菜子 0:58:37	お茶の水女子3
	高橋美誉 1:07:39	岩手4
	大河内恵美 1:17:26	横浜市立4
	横山理恵 1:18:03	金沢4
	伊東瑠実子 1:19:40	東京2
	守屋舞香 1:25:03	椋山女学園2

※筆者の手元にルート図があるのは上位6名分である。レッグによっては他の選手がトップラップを獲得しており、下記解説に記載がないルートが速かった可能性もある。

### [△→1]

スタート直後、落ち着いてレースを開始できるかを問うレッグであり、難易度は低い。

コース設定時にはなかった林業道ができており、それを辿れば容易である。高橋は道を間違えて1分のミスタイムを出している。



### [1→2]

直進して2ポのある沢に飛び込めば良いレッグである。目的の沢は上の方まで伸びており、難易度は高くない想定であったが、上位選手でもミスが見られる。トップラップは稲毛で1:36、柳川が1:46で続く。大河内・横山・伊東・守屋はルートが膨らむ・パラレルエラーするなどしてそれぞれ1分半のミスタイムを出している。

### [2→3]

川をどこで渡河するかがポイントとなるレッグである。上位者は ①ほぼ直線的に進む ②アタックが容易となる 3 ポ上側の道に出るように、小径を使い斜面を登ってから渡る の 2 パターンに分かれた。

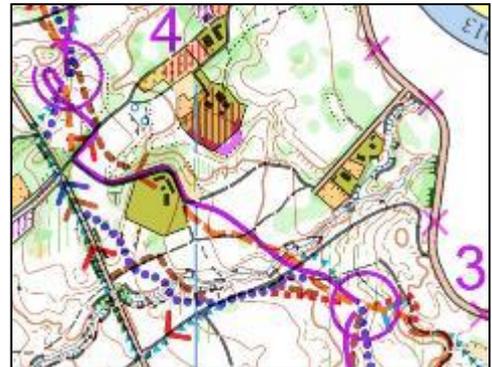
②だと距離が伸びるが、①のルートは川の斜度がきつくて渡河の後に登り返しが発生する。このため、プランナーは①②のおよそ中間で渡河するのがベストルートと想定していた。

トップラップは①を選択した稲毛、千明(ルート不明)が 5:50、①を選択した守屋が 6:06 と続く。②のルートを採用した上位者で速いのは高橋で 6:47 であり、1 分のミスタイムを出している。同様に伊東が 1 分半の、横山が 3 分半のミスタイムを出している。

### [3→4]

ルート選択は主に 2 パターンで、直線的なルートか、南西側の道を回るかである。うまくいけばどちらも大差ない想定である。

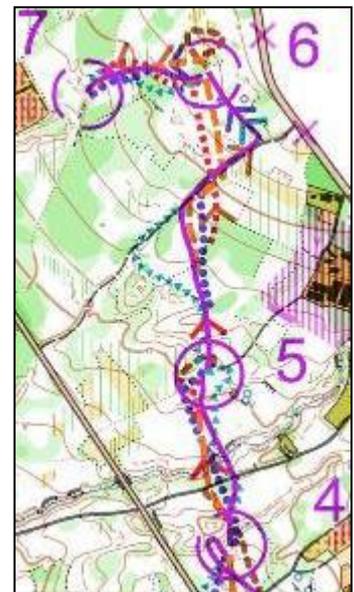
トップラップは直線的なルートを選択した高橋で 4:51、道回りを選んだ横山が 5:00 で続く。道回りルートの途中でショートカットを試みた大河内はスピードが出ずに 1 分程度のミスタイムを出している。



### [4→5]

ほぼまっすぐ進むだけのレッグ。渡河点の位置を把握していれば難しくはない。

守屋は本レッグで 10 分半のミスタイムを出しており、この時点で積算 4 位から 25 位まで下げている。



### [5→6]

レッグ線方向に脱出して小道に出た後、方向維持に自信があればそのまま直線的にアタックしても良いが、リスクを避けるために北東側にある少しだけ北西に伸びている小径を使ってアタックするのも良い。

トップラップは小径を使ってアタックした稲毛で 3:54、直線的にアタックした高橋が 4:06 で続く。守屋はアタックミスして 4 分半のミスタイムを出している。

### [6→7]

つなぎのレッグである。解説は不要であろう。

### [7→8]

本コース最長のロングレグである。とは言ってもルート選択の幅は多くなく、主要道路への脱出をどうするか、及びレグ後半の立入禁止で描かれた私有地エリア付近で距離が伸びるのを避けてショートカットをするか、程度である。距離と走りやすさがバスターとなっているためどのルートでも大差ない想定である。ME よりもコントロール位置が東寄りのため、南西側の主要道路を使う上位選手はいなかった。

トップラップは千明で 11:43、守屋が 11:45、高橋が 11:55、稲毛が 11:57 と続く。

### [8→9]

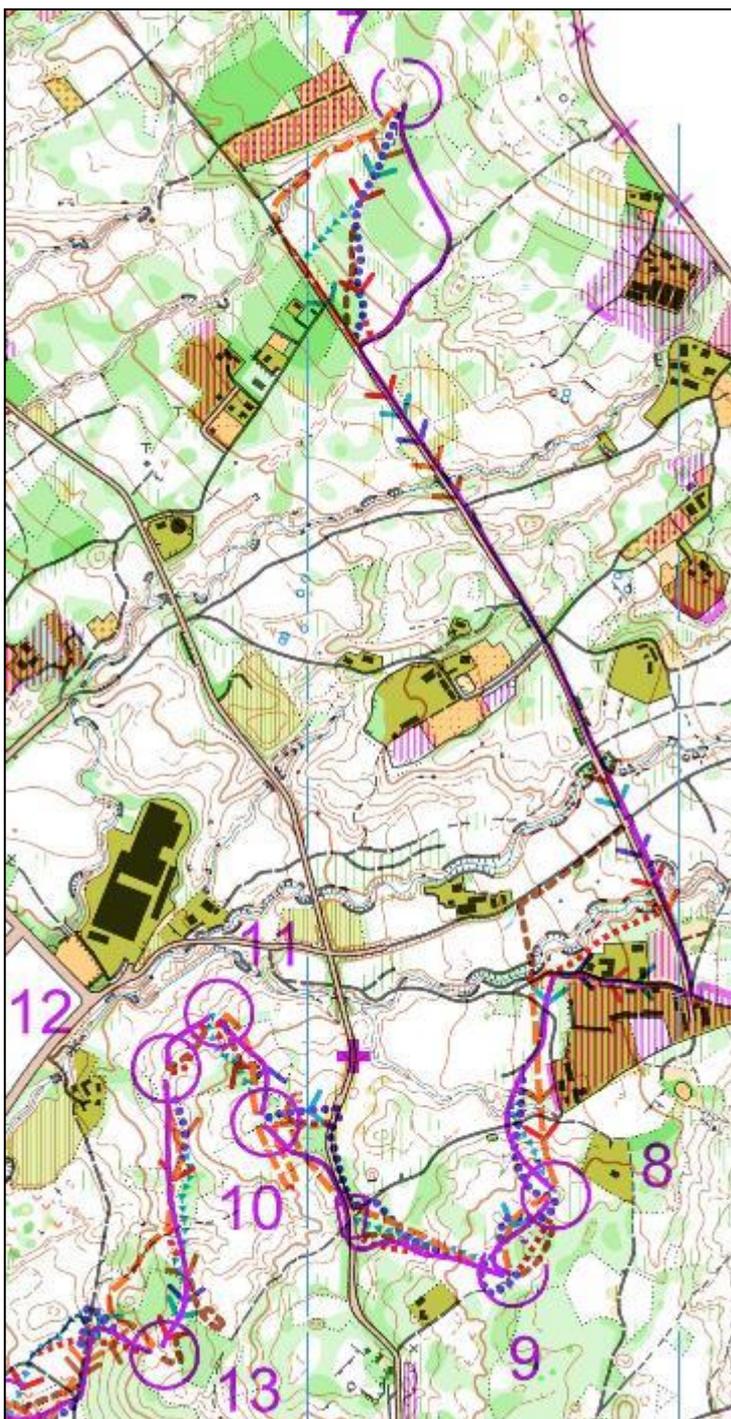
長い道走りから一転、ミドル競技的なレグが続く区間となる。ME とは異なり 9 ポの位置はアタック難易度が高くないため、波乱は起きていない。直線的に進むと植生が悪いため、やや西側に迂回するのがベストルートの想定であった。

トップラップは稲毛で 1:11、守屋が 1:17 で続く。

### [9→10]

給水所方向へ脱出して主要道路に出た後、直線的にアタックするか東側から回りこむようにアタックするかを選択するレグである。直線的にアタックする方が距離の分だけ若干早い想定である。

トップラップは稲毛で 2:59、守屋が 3:12 で続く。千明がここで 12 分のミスタイムを出しており、積算 5 位から入賞圏外へ後退した。



### [10→11]

典型的なミドル競技的レグであり、アタックの正確さを問うものである。

トップラップは稲毛で 1:11、宮川が 1:12 で続く。

### [11→12]

連続してミドル競技的なショートレグである。

トップラップは宮川で 0:42、千明が 0:43 で続く。

**[12→13]**

比較的長く距離をコンタリングするレグである。ヤブの間を縫うように真南に進めば良い。

トップラップは稲毛で 2:51、宮川が 3:19、大河内が 3:25 で続く。高橋は途中小径に流されて下ってしまい 1 分半の、守屋はアタックミスして 2 分半のミスタイムを出している。柳川はここで 6 分半のミスタイムを出し、4 位から入賞圏外へ後退した。

**[13→14]**

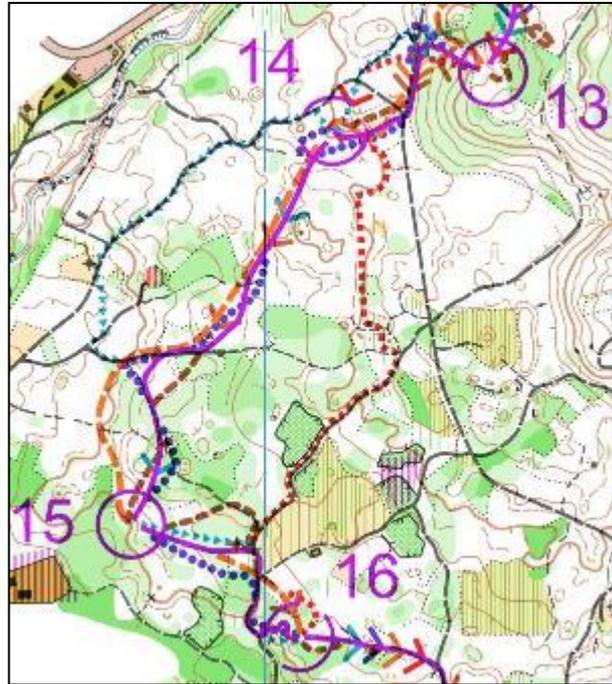
つなぎのレグである。

トップラップは宮川で 1:34、守屋が 1:45 で続く。

**[14→15]**

直線的に進むか、距離が増えるのを許容して西側の道を使うのかを選択するレグとして設定した。直線的に進んでも植生や道の情報が分かりやすいため、こちらがベストルートの想定である。上位選手の多くはアタックミスのリスクを避けて、鉄塔からアタックしている。

トップラップは稲毛で 4:34、高橋が 4:48 で続く。西側の道を回った横山は 8:18、東回りを選択した伊東は 8:00。



**[15→16]**

15 ポからレグ方向へ脱出した後、ヤブをどのように対処するかというレグである。

トップラップは小野で 2:45、池嶋が 2:53 で続く。積算 2 位だった宮川がここで痛恨のペナをして失格となった。

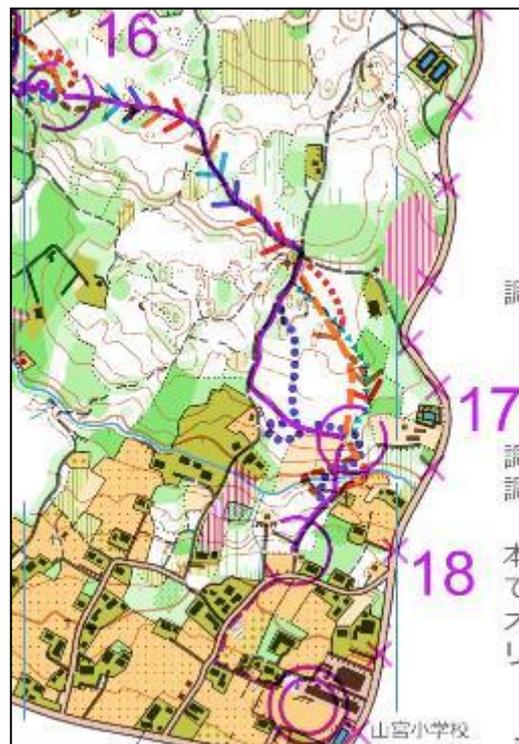
**[16→17]**

16 からの脱出は上位者全員同じルートを使用している。アタックの方向に差が見受けられるが、タイムは大差ないであろう。

トップラップは西からアタックした稲毛で 4:14、北からアタックした高橋が 4:21 で続く。

**[17→18][18→◎]**

これは解説不要であろう。



## レース結果を振り返って

男子の優勝タイムは78分であり、ほぼ優勝設定時間どおりである。2位以降も82分・82分・84分と続いているため、コース設定は適切であったと言えるであろう。

女子の優勝タイムは58分であり、優勝設定時間を大幅に切っている。これは優勝者が想定以上の好レースをしたためであり、2位以降が67分・77分78分という結果を考慮すれば、コース距離が短過ぎたとまでは言えないであろう。女子は全体でもタイムのバラつきが大きく、難易度設定が高過ぎたという見方もできる。しかし、選手権を名乗る以上、その格を落とすようなコースとすべきではないと考える。むしろ、このコースでレベルの高い争いができる選手が多数揃うことを期待し、「セレに通過しても実力が不足していれば辞退する」くらいの意気込みで取り組んで欲しいと願うものである。

## おわりに

今回の選手権のコースは楽しんでいただけたであろうか、それとも辛いと感じたであろうか。プランナーとしては、「入賞者レベルなら楽しめる」ことを目安にコース設定をした。もしも全く対応できずに悔しい思いをしたということであれば、残念ながら大会時点では実力が選手権レベルに達していなかったということであり、奮起を促したい。

また、本稿では詳しく触れなかったが、一般クラスについては、競技者のレベル差が大きいため全体的には難易度を抑えたが、優勝するにはそのクラスよりもワンランク上の実力が求められるようにコースを組んだ。表彰台に立った選手達は、ぜひ次は選手権の場に挑んで欲しい。

最後に、35度の炎天下で試走に参加して意見を頂いた方々、及び最初から最後まで延々とコース調整に付き合っていた頂いた競技責任者には感謝します。

## 6. 成績

### ME

1	尾崎弘和	1:18:17	早稲田大学 3
2	菅野敬雅	1:22:06	東北大学 4
3	真保陽一	1:22:52	東京大学 4
4	杉村俊輔	1:24:26	東北大学 3
5	深田恒	1:24:37	東京大学 2
6	福井悠太	1:25:15	東京大学 2
7	前田悠作	1:26:53	名古屋大学 4
8	渡仲祥太	1:27:07	名古屋大学 4
9	西本昌史	1:27:35	東北大学 3
10	宮西優太郎	1:29:04	東北大学 2
11	嶋岡雅浩	1:31:42	名古屋大学 3
12	小島拓也	1:32:40	東京大学 3
13	細川知希	1:32:43	名古屋大学 4
14	糸賀翔大	1:33:00	東京大学 3
15	松下陸生	1:33:04	京都大学 3
16	細淵晃平	1:33:36	一橋大学 4
17	五百倉大輔	1:35:05	京都大学 2
18	久保田雄起	1:35:56	東京大学 3
19	福井直樹	1:35:59	大阪大学 4
20	橋本知明	1:36:30	東京大学 1
21	近藤康満	1:36:32	名古屋大学 4
22	石野夏幹	1:37:28	東京大学 4
23	堀江悟	1:37:54	名古屋大学 4
24	松本佳也	1:41:19	北海道大学 3
25	澤口弘樹	1:42:31	早稲田大学 1
26	鈴木蒼	1:42:51	京都大学 4
27	岩田健太郎	1:43:16	東京大学 3
28	堀裕多	1:45:02	大阪大学 4
29	蜂須賀久晴	1:45:25	東京大学 3
30	牧宏優	1:45:54	名古屋大学 3
31	高橋祐貴	1:46:17	新潟大学 4
31	糸井川壮大	1:46:17	京都大学 2
33	小石原暉	1:46:28	東京大学 4
34	平木達也	1:48:08	東京大学 3
35	安中勇大	1:48:49	京都大学 3
36	田森宥好	1:49:45	東京大学 3
37	藤村陸	1:52:31	早稲田大学 3
38	青木洸則	1:52:57	北海道大学 3
39	平野弘幸	1:53:04	東北大学 4
40	津高剛	1:55:16	大阪大学 4
41	笠原朋樹	1:55:50	関西大学 4
42	関淳	1:56:21	東北大学 4
43	小菅一輝	1:56:31	京都大学 3
44	山本遼平	1:56:32	新潟大学 3
45	大井真	1:56:37	東京大学 2

46	宇井賢	1:56:46	京都大学 3
47	山本淳史	1:58:09	東京大学 4
48	小倉暢	1:58:44	京都大学 4
49	戸上直哉	1:59:08	東京工業大学 2
50	見目裕之	2:00:23	東北大学 4
51	大久保宗典	2:01:29	東京大学 2
52	東将央	2:02:31	横浜国立大学 2
53	吉江一樹	2:11:19	千葉大学 4
54	山本匡毅	2:12:32	名古屋大学 3
55	牧野達哉	2:16:30	東京大学 4
56	平野大輔	2:19:54	名古屋大学 3
57	藤橋涼	2:22:44	東北大学 2
57	坂口祐生	2:22:44	大阪大学 4
59	吉田真吾	2:28:12	東京工業大学 3
60	長友悠	2:28:59	東京大学 3
	大村幸一郎	2:34:51	名古屋大学 2
	田中基士	DISQ	横浜市立大学 2
	渡辺幸	DISQ	山形大学 2
	佐藤雄太郎	DISQ	東北大学 2
	門口昌宣	DISQ	東北大学 3

### WE

1	稲毛日菜子	0:58:37	お茶の水女子大学 3
2	高橋美誉	1:07:39	岩手大学 4
3	大河内恵美	1:17:26	横浜市立大学 4
4	横山理恵	1:18:03	金沢大学 4
5	伊東瑠実子	1:19:40	東京大学 2
6	守屋舞香	1:25:03	相山女学園大学 2
7	柳川梓	1:25:18	筑波大学 4
8	渡邊彩子	1:26:11	早稲田大学 3
9	福井莉子	1:26:24	新潟大学 4
10	關明日香	1:27:22	岩手大学 4
11	池嶋美佳	1:28:02	金沢大学 4
12	小野萌	1:29:47	岩手大学 3
13	松田沙也加	1:36:42	岩手大学 2
14	星美沙	1:37:16	相山女学園大学 3
15	齋藤菜津美	1:38:28	宮城学院女子大学 3
16	高田奈緒	1:44:18	東京医科歯科大学 2
17	山口遼子	1:45:08	津田塾大学 3
18	沢田慧	1:45:46	東北大学 4
19	前之園知江	1:47:40	京都女子大学 3
20	中村聖美	1:48:25	東北大学 4
21	山岸史佳	1:52:01	実践女子大学 4
22	武居礼夏	1:52:37	千葉大学 3
23	榎本梨乃	1:54:30	実践女子大学 3
24	松井恵理子	1:55:45	名古屋大学 3
25	葭葉歩未	1:55:46	東北大学 2

26	小山奈月	1:56:18	お茶の水女子大学 2	32	春日直也	1:03:44	金沢大学 2
27	山田陽子	1:56:20	早稲田大学 3	33	小山健司	1:04:17	金沢大学 3
28	堀口奈保	1:57:11	東北大学 4	34	野村隼大	1:04:36	新潟大学 3
29	千明瑞希	1:57:17	横浜市立大学 3	35	小柴滉平	1:05:37	筑波大学 2
30	市之瀬春佳	2:08:13	日本女子大学 4	36	松井俊樹	1:06:44	京都大学 2
31	菅野美里	2:11:08	福島大学 2	37	後藤孔要	1:07:14	筑波大学 3
32	加地沙綾子	2:11:45	椛山女学園大学 4	38	加藤拓	1:09:03	東北大学 3
33	磯田みつき	2:11:57	実践女子大学 4	39	園田一樹	1:09:15	静岡大学 3
34	鹿志村美帆	2:14:31	東北大学 4	40	高橋建輔	1:09:47	新潟大学 4
35	渡辺菜央美	2:17:06	名古屋大学 2	41	村山宗理	1:10:01	東京農工大学 3
36	松下未来	2:19:24	東京農工大学 4	42	山岡由和	1:10:06	東北大学 3
37	砂田莉紗	2:24:17	横浜市立大学 2	43	石橋雄弥	1:10:46	大阪大学 3
	藤井奏子	2:42:23	岩手県立大学 1	44	斎藤健太郎	1:11:14	東北大学 2
	渡邊志保	3:23:34	米沢女子短期大学 1	45	大川貴聖	1:12:59	東北大学 2
	内海春菜	DISQ	宮城学院女子大学 2	46	林千尋	1:14:04	名古屋大学 2
	宮川早穂	DISQ	立教大学 2	47	柳村紘貴	1:15:07	東京工業大学 2
	田中千晶	DISQ	お茶の水女子大学 4	48	星野朗広	1:16:21	名古屋大学 3
	中神志穂	DISQ	岩手大学 1	49	佐藤大樹	1:17:58	東京工業大学 3
	千葉聡美	DISQ	宮城学院女子大学 2	50	市谷優太	1:19:19	東京農工大学 4
	増田実穂	DISQ	実践女子大学 4	51	島澤勇人	1:19:49	新潟大学 4

## MUL1

1	菅坂康紘	0:45:52	京都大学 3	52	岡山将也	1:21:25	名古屋大学 2
2	金和也	0:46:16	金沢大学 4	53	畑佐豪記	1:22:21	名古屋大学 2
3	原田龍馬	0:46:32	東北大学 2	54	及川幹	1:22:31	大阪大学 3
4	村田祐貴	0:47:52	新潟大学 3	55	中野真司	1:30:23	東京工業大学 3
5	盛尾英暉	0:47:59	東京大学 3	56	杉山泰斗	1:31:33	名古屋大学 2
6	昆野郁	0:49:05	北海道大学 3	57	石田洋	1:34:51	大阪大学 2
7	小山達之	0:49:10	駿河台大学 4	58	林俊太	1:41:18	東京大学 3
8	北条洋樹	0:49:57	静岡大学 4	59	坂本泰一	1:43:19	東京農工大学 2
9	小向和希	0:50:35	岩手大学 3	60	佐藤哲朗	1:50:55	岩手大学 3
10	山田晋太郎	0:50:41	東京工業大学 4	61	勝間田駿	1:51:24	茨城大学 2
11	藤原大樹	0:51:01	岩手大学 2	62	後藤成彦	1:51:51	名古屋大学 4
12	河井航	0:52:50	東北大学 3		江間大輝	2:13:14	早稲田大学 2
13	名倉慎吾	0:53:05	横浜国立大学 2		川越啓文	2:24:07	茨城大学 3
14	山本信彰	0:53:07	千葉大学 3		鎗山純	DISQ	東北大学 3
15	荒明遼一	0:54:35	名古屋大学 3		深沢裕太	DISQ	東北大学 3
16	濱田佑	0:54:57	京都大学 2		天羽洸介	DISQ	千葉大学 2
17	橋本英明	0:55:09	東北大学 4		戸田篤希	DISQ	静岡大学 2
18	出口真行	0:55:23	名古屋大学 4				
19	木村雄大	0:55:56	大阪大学 2				
20	安田成宏	0:57:02	名古屋大学 3				
21	樋口広樹	0:58:06	岩手県立大学 3				
22	長洲卓	0:58:18	早稲田大学 4				
23	中西基裕	0:58:25	大阪大学 3				
24	中村浩之	0:58:42	新潟大学 4				
25	白石祐太	1:00:32	北海道大学 2				
26	五月女貴平	1:00:39	東北大学 3				
27	岡部晋佑	1:01:27	大阪大学 2				
28	関根桂介	1:01:41	一橋大学 2				
29	伊藤奎梧	1:01:51	京都大学 4				
30	鹿嶋勇	1:01:54	筑波大学 3				
31	折原行希	1:03:30	東北大学 3				

## MUL2

1	高嶋健伍	0:46:03	金沢大学 3
2	祐谷大輝	0:47:37	東京大学 2
3	佐藤颯汰	0:50:20	新潟大学 3
4	根本直人	0:52:43	千葉大学 4
5	辻上裕之	0:52:44	東北大学 4
6	稲垣湧斗	0:53:50	東北大学 3
7	穂崎康良	0:55:18	名古屋大学 4
8	衣川浩輔	0:55:32	一橋大学 2
9	猪倉陸	0:56:18	東北大学 2
9	小川丈彰	0:56:18	大阪大学 2
11	河村裕太	0:57:38	東京農工大学 2
12	赤尾津翔大	0:58:40	東北大学 3
13	清水健司	0:58:57	新潟大学 2
14	加野良樹	0:59:14	新潟大学 4

15	太田裕士	0:59:18	京都大学 2
16	稲葉翔也	1:01:36	名古屋大学 2
17	笠間悠輔	1:01:47	京都大学 2
18	宮島長太郎	1:02:58	名古屋大学 3
19	伊藤悠葵	1:03:03	大阪大学 2
20	野村龍生	1:03:57	新潟大学 4
21	田口保成	1:04:18	名古屋大学 4
22	青木飛翔	1:06:58	東北大学 2
23	赤羽賢祐	1:08:20	静岡大学 3
24	古村堯大	1:08:24	京都大学 3
25	今井祐太	1:08:37	名古屋大学 2
26	嶋田圭太郎	1:08:41	千葉大学 3
27	弓削田慎一	1:10:07	駿河台大学 3
28	根岸岳	1:10:13	東京工業大学 3
29	川岸敬生	1:10:46	名古屋大学 2
30	高水陽介	1:10:48	名古屋大学 2
31	二川湧星	1:11:12	大阪大学 2
32	堀田隼人	1:11:19	東京農工大学 2
33	相場高平	1:11:38	東北大学 3
34	倉本竜太	1:12:03	京都大学 4
35	長坂侑亮	1:12:22	東京工業大学 4
36	熊見弘一	1:12:24	早稲田大学 2
37	高橋秀明	1:13:29	金沢大学 2
38	木間光	1:13:47	筑波大学 4
39	太田明光	1:14:07	東北大学 2
40	長谷部敬之	1:15:10	茨城大学 3
41	遠藤彰	1:16:30	名古屋大学 2
42	大倉辰興	1:18:32	東京工業大学 3
43	綱嶋俊一	1:20:20	東北大学 4
44	小林洋平	1:22:00	東北大学 4
45	外谷峻	1:22:28	岩手大学 3
46	大竹司	1:22:35	金沢大学 2
47	廣瀬文明	1:24:12	大阪大学 3
48	佐藤謙太	1:27:44	東京大学 2
49	野口宇宙	1:28:14	筑波大学 2
50	原田崇史	1:28:37	静岡大学 2
51	宮川孝	1:36:16	筑波大学 2
52	川崎壯人	1:36:17	岩手大学 3
53	小栗真哉	1:37:10	茨城大学 3
54	仲田宗平	1:41:51	大阪大学 2
55	今野直人	1:42:23	新潟大学 3
56	石澤衛	1:44:54	岩手大学 2
57	阿野知史	1:47:40	北海道大学 2
58	村川拓也	1:51:42	東京大学 2
	吉竹洵人	2:05:02	静岡大学 2
	松山聡史	2:05:19	名古屋大学 3
	岸祥太郎	2:30:45	北海道大学 2
	南勇太	2:32:17	東京農工大学 2
	阿部稜	DISQ	東北大学 2
	大宮尚貴	DISQ	横浜国立大学 3
	渡邊巧	DISQ	東北大学 2
	田中大貴	DISQ	早稲田大学 4

## MUL3

1	長谷部達也	0:48:12	京都大学 3
2	井鍋寛伸	0:50:24	東北大学 3
3	村瀬貴紀	0:51:25	筑波大学 2
4	内藤一平	0:52:02	京都大学 3
5	橋場良太	0:52:31	東北大学 2
6	野本圭介	0:52:40	筑波大学 3
7	犬山諒洋	0:52:42	横浜国立大学 3
8	小野真嗣	0:55:09	京都大学 2
9	鈴木良広	0:56:11	東京大学 4
10	石川智之	0:56:38	大阪大学 2
11	境沢勇人	0:57:14	東北大学 4
12	山下恵右	0:58:05	静岡大学 4
13	森一樹	0:59:12	金沢大学 2
14	島倉侑志	0:59:42	金沢大学 2
15	上松遼	0:59:48	一橋大学 2
16	桜井創	0:59:52	大阪大学 2
17	渡邊祐司	1:02:15	東北大学 3
18	平井伸治	1:03:32	東北大学 2
19	依田健志	1:03:51	福島大学 4
20	徳増宏基	1:04:10	東京工業大学 3
21	栗栖怜央	1:06:05	大阪大学 3
22	小室祐貴	1:06:09	新潟大学 3
23	増田暁	1:06:33	金沢大学 2
24	金野隼希	1:06:49	岩手大学 2
25	森泰二郎	1:07:25	東京大学 2
26	本山翔太	1:07:59	横浜市立大学 2
27	泉修平	1:09:17	北海道大学 2
28	那須佳祐	1:10:01	筑波大学 2
29	武田惇	1:11:21	名古屋大学 2
30	増田翔太	1:12:18	名古屋大学 2
31	朝野椋太	1:12:43	京都大学 2
32	山口雅弘	1:13:08	名古屋大学 2
33	新野純平	1:13:40	東北大学 4
34	花水康一郎	1:14:41	岩手大学 3
35	長谷部量紀	1:15:13	名古屋大学 2
36	山崎健太郎	1:15:30	東北大学 3
37	森友宏	1:15:50	名古屋大学 2
38	堀滉司	1:17:37	名古屋大学 3
39	柳沢稜	1:18:03	早稲田大学 2
40	吉川昭成	1:19:13	静岡大学 3
41	蛭田善大	1:19:22	茨城大学 2
42	増川武志	1:19:50	東京農工大学 4
43	北川太一	1:20:23	神戸市外大 2
44	富田航	1:20:54	東北大学 2
45	高橋稔弥	1:20:56	岩手大学 2
46	杉田慎之助	1:21:24	大阪大学 2
47	鈴木豪仁	1:22:19	名古屋大学 3
48	小林祐太	1:22:35	名古屋大学 3
49	高橋和輝	1:25:49	早稲田大学 2
50	横井和樹	1:28:44	筑波大学 4
51	片田裕太	1:34:35	新潟大学 2
52	小川裕太	1:36:08	東京農工大学 3

53	坂田真	1:36:10	東北大学 2	38	畑野哲明	1:12:09	早稲田大学 4
54	乳井草太	1:42:00	東北大学 2	39	前田卓哉	1:12:19	東北大学 3
55	横山大輔	1:44:12	東京工業大学 3	40	後藤建	1:12:37	千葉大学 3
56	望月優希	1:45:11	静岡大学 2	41	小松和輝	1:13:21	新潟大学 3
57	菱沼和輝	1:46:24	千葉大学 2	42	横田幸也	1:15:36	新潟大学 3
58	久須美裕	1:46:36	新潟大学 2	43	飯室匠	1:16:04	早稲田大学 2
59	小橋正明	1:47:17	新潟大学 2	44	茂木大介	1:16:57	東北大学 3
60	橋本薫槻	1:47:39	名古屋大学 3	45	高橋遼	1:18:15	東京農工大学 3
	小山智弥	DISQ	金沢大学 3	46	河野浩典	1:18:19	早稲田大学 3
	番場葵	DISQ	東北大学 2	47	齋藤拓也	1:18:45	名古屋大学 2
	新粥文哉	DISQ	千葉大学 2	48	西山健登	1:20:48	金沢大学 2
	大沢良太	DISQ	静岡大学 4	49	齋藤真	1:21:40	東北大学 2
	岩尾朋洋	DISQ	東京大学 3	50	中林祥基	1:22:43	大阪大学 2
	吉川輝	DISQ	東京工業大学 2	51	木所佑斗	1:23:21	東京工業大学 2

## MUL4

1	石井伸明	0:48:50	新潟大学 4	52	金田隆聖	1:23:42	静岡大学 2
2	柄晃裕	0:49:28	東京農工大学 4	53	豊永恭平	1:28:06	東京工業大学 4
3	松澤卓也	0:50:03	金沢大学 3	54	石坂勇人	1:28:08	静岡大学 2
4	柳澤颯太	0:50:08	名古屋大学 3	55	清水家齊	1:28:10	筑波大学 3
5	太田晶久	0:50:46	一橋大学 3	56	仲野雄大	1:28:40	東北大学 3
6	三浦孝之	0:51:05	福島大学 2	57	蔵田裕介	1:28:51	名古屋大学 2
7	川上雅人	0:51:20	名古屋大学 3	58	楠瀬智己	1:31:38	大阪大学 2
8	塚越航	0:52:42	東京工業大学 3	59	平井辰樹	1:31:46	大阪大学 3
9	松尾遼	0:54:13	横浜市立大学 3	60	三上玲皇	1:32:30	茨城大学 3
10	松井俊一	0:54:15	筑波大学 3	61	遠藤百希	1:41:29	岩手県立大学 2
11	伊藤陵	0:55:15	京都大学 2	62	中港信之助	1:47:20	千葉大学 2
12	佐藤大典	0:56:17	東北大学 4	63	村吉諄之	1:53:25	東京大学 2
13	高椋章太	0:56:39	大阪大学 4		今井健人	2:04:59	名古屋大学 2
14	向嶋宏記	0:56:44	名古屋大学 3		工藤直紀	2:08:14	名古屋大学 4
15	井上憲輝	0:57:26	東北大学 3		榊原健太	2:37:03	名古屋大学 2
16	松島真之	0:57:58	京都大学 2		稲田知大	DISQ	神戸大学 3
17	竹下和希	0:58:10	筑波大学 3		宗本健太郎	DISQ	名古屋大学 3
18	茂木俊之	0:58:48	東北大学 3				
19	新井悠功	0:58:49	新潟大学 4				
20	古林琢	0:58:53	東京工業大学 3				
21	高橋亮	1:00:24	東北大学 4				
22	藤井邦俊	1:01:02	東京農工大学 3				
23	鈴木宏明	1:04:21	金沢大学 2				
24	藤浦圭一	1:04:59	横浜国立大学 2				
25	杵田士郎	1:05:30	大阪大学 4				
26	井口翔太	1:05:47	京都大学 2				
27	高橋和弘	1:05:59	北海道大学 2				
27	泰井宙輝	1:05:59	東京大学 2				
29	馬場泰光	1:06:32	静岡大学 2				
30	木村優治	1:06:46	新潟大学 2				
31	大阪久登	1:06:55	東北大学 3				
32	中村陽二	1:07:21	京都大学 4				
33	横山智裕	1:09:47	岩手大学 2				
34	後藤優輝	1:10:43	東北大学 2				
35	山内司	1:10:46	岩手大学 4				
36	佐々木克海	1:10:50	岩手大学 2				
37	町田直樹	1:11:05	東北大学 2				

## MUS

1	阿部一樹	0:41:52	東北大学 4
2	新谷国隆	0:42:09	名古屋大学 4
3	五十嵐悠	0:45:24	東北大学 3
4	室田健人	0:52:00	東京大学 4
5	矢吹俊哉	0:54:41	東北大学 4
6	末続文正	0:58:53	横浜国立大学 2
7	水本駿介	1:06:15	横浜国立大学 2
8	木村友佳	1:10:36	長野高専 2
9	伊波俊	1:20:14	静岡大学 4
10	山田晃司	1:20:54	静岡大学 4
11	飯島隼人	1:32:53	横浜市立大学 2
12	大崎遼	1:32:54	東北大学 4
13	山田康太	1:33:24	東北大学 2
14	田村裕馬	1:36:21	東北大学 4
15	春原広河	1:39:22	東北大学 2
16	小室裕貴	1:40:09	福島大学 2
17	馬場崇史	1:40:29	東北大学 4
18	大西健夫	1:56:09	名古屋大学 4
	藤原吉高	2:01:39	一橋大学 4
	水野淳	2:52:10	東京工業大学 4

## MUF1

1	猪俣祐貴	0:45:47	東京大学 1
2	立川大輝	0:51:50	関東学院大学 1
3	神谷周作	0:52:24	名古屋大学 1
4	滝川真弘	0:52:37	東北大学 1
5	熊谷光起	0:52:59	名古屋大学 1
6	橋本航汰	0:54:29	東北大学 1
7	栗本開	0:54:56	東京大学 1
8	佐藤充晃	0:55:31	名古屋大学 1
9	上田聖也	0:56:04	筑波大学 1
10	松本大志	0:56:27	慶應義塾大学 1
11	松浦知佑	0:57:49	大阪大学 1
12	田中大貴	0:58:52	一橋大学 1
13	田島和明	0:58:53	筑波大学 1
14	佐藤真悟	1:01:39	大阪大学 1
15	竹内孝	1:03:11	京都大学 1
16	前田悠佑	1:03:56	名古屋大学 1
17	岩崎郷史	1:05:00	金沢大学 1
18	前中脩人	1:05:16	東京大学 1
19	細正隆	1:05:59	東北大学 1
20	伊藤雅哉	1:06:38	東北大学 1
21	野崎信介	1:08:11	金沢大学 1
22	大谷修司	1:08:22	金沢大学 1
23	犬塚真太郎	1:09:42	早稲田大学 1
24	岡本仁志	1:10:06	北海道大学 1
25	山内崇弘	1:10:26	名古屋大学 1
26	塚澤謙士郎	1:13:04	岩手県立大学 1
27	庄司大輔	1:13:43	福島大学 1
28	山口雄太	1:14:47	東京大学 1
29	細川公平	1:15:23	東京工業大学 1
30	大川拓哉	1:18:31	東北大学 1
31	福重雄大	1:20:58	京都大学 1
32	伊藤健太	1:21:03	岩手大学 1
33	天野良樹	1:23:38	京都大学 1
34	菅野柊斗	1:24:22	新潟大学 1
35	実藤俊太	1:26:54	京都大学 1
36	伊藤拓己	1:27:40	千葉大学 1
37	照井雄大	1:39:09	東北大学 1
38	長柄啓悟	1:41:31	名古屋大学 1
39	福澤佑哉	1:42:52	名古屋大学 1
40	小室慎也	1:43:32	東北大学 1
41	木村晃世	1:48:40	名古屋大学 1
42	榎本有作	1:52:55	千葉大学 1
	築地孝和	2:00:04	神戸大学 1
	寺田侑司	2:02:22	静岡大学 1
	大槻祐揮	2:07:08	早稲田大学 1
	太田好洋	2:10:53	岩手大学 1
	鈴木拓弥	3:13:35	京都大学 1
	佐藤大心	3:13:58	筑波大学 1
	西村駿	DISQ	東京工業大学 1
	田中基成	DISQ	筑波大学 1
	久保田詞也	DISQ	新潟大学 1
	伊坂太一	DISQ	茨城大学 1

## MUF2

1	浅井迅馬	0:42:36	京都大学 1
2	半沢守	0:45:36	東北大学 1
3	橋本正毅	0:45:59	東北大学 1
4	大竹達也	0:47:05	金沢大学 1
5	石山良太	0:48:12	名古屋大学 1
6	田村朋宏	0:49:08	早稲田大学 1
7	桑原大樹	0:49:16	東京大学 1
8	樋口佳祐	0:49:58	名古屋大学 1
9	三上剛弘	0:50:34	東京工業大学 1
10	井倉幹大	0:51:21	東京大学 1
11	久保田将行	0:56:19	東京農工大学 1
12	土田稔泰	0:57:00	岩手県立大学 1
13	遠藤駿典	0:57:37	名古屋大学 1
14	林浩平	0:58:45	筑波大学 1
15	石川仁弥	0:59:57	名古屋大学 1
16	大西正倫	1:01:23	東京大学 1
17	牧内佑介	1:05:29	京都大学 1
18	松岡慧	1:06:14	名古屋大学 1
19	清水敬太	1:06:54	東北大学 1
20	小松栄輝	1:07:41	東北大学 1
21	明石孝平	1:09:06	千葉大学 1
22	田中悠	1:09:07	慶應義塾大学 1
23	林龍之介	1:09:48	北海道大学 1
24	河合悠佑	1:10:45	名古屋大学 1
25	村木拓真	1:11:22	慶應義塾大学 1
26	加藤健太	1:11:25	東北大学 1
27	外山敬介	1:12:54	岩手大学 1
28	安田秀輝	1:16:34	千葉大学 1
29	土川翔伍	1:16:39	京都大学 1
30	海沼修平	1:18:41	大阪大学 1
31	橘浩祐	1:18:47	横浜国立大学 1
32	段塚裕貴	1:19:22	名古屋大学 1
33	君成田智裕	1:19:35	岩手大学 1
34	大田拓穂	1:20:20	東京工業大学 1
35	田邊京平	1:24:11	新潟大学 1
36	佐東一輝	1:26:37	千葉大学 1
37	井上智史	1:31:36	金沢大学 1
38	日隈友也	1:34:21	東北大学 1
39	佐藤弘基	1:34:45	福島大学 1
40	木下貴裕	1:37:05	筑波大学 1
41	小栗淳之介	1:39:27	静岡大学 1
42	山崎大輔	1:42:20	大阪大学 1
43	上田大介	1:48:40	京都大学 1
	藤田真汐	2:15:24	静岡大学 1
	岡田悠馬	2:16:30	茨城大学 1
	牧野剛士	DISQ	千葉大学 1
	山下部諒	DISQ	東京工業大学 1
	田中求	DISQ	金沢大学 1

## MUF3

1	山本大輝	0:51:49	金沢大学 1
2	橋本修志	0:52:24	京都大学 1
3	葛野力	0:55:13	京都大学 1
4	吉野拓海	0:57:34	新潟大学 1
5	池田周平	1:00:22	東京農工大学 1
6	横田望	1:03:53	筑波大学 1
7	吉川拓寿	1:04:34	東北大学 1
8	山口雅裕	1:05:10	東京大学 1
9	清水浩太	1:07:47	新潟大学 1
10	彦坂諭志	1:08:17	名古屋大学 1
11	大野貴紀	1:09:08	横浜国立大学 1
12	井上裕義	1:09:21	金沢大学 1
13	村杉英昭	1:09:38	東北大学 1
14	吉崎薫登	1:10:10	静岡大学 1
15	稲田優幸	1:10:39	茨城大学 1
16	中浴広樹	1:10:47	千葉大学 1
17	芳賀太史	1:12:21	東京工業大学 1
18	木島佑輔	1:14:42	東京大学 1
19	大神優祐	1:18:30	京都大学 1
20	久世大城	1:19:17	福島大学 1
21	谷田幸隆	1:20:51	筑波大学 1
22	見目憲秋	1:22:35	早稲田大学 1
23	坂井浩紀	1:22:48	北海道大学 1
24	塩向雅斗	1:23:12	千葉大学 1
25	高野証人	1:24:30	東北大学 1
26	松本直大	1:25:17	筑波大学 1
27	田口茂樹	1:25:44	岩手大学 1
28	高久匠	1:26:39	岩手大学 1
29	池田慧	1:29:41	名古屋大学 1
30	山口淳貴	1:29:46	慶應義塾大学 1
31	長谷川眞志	1:30:00	金沢大学 1
32	三本杉武大	1:30:15	福島大学 1
33	瀬尾峻汰	1:33:05	京都大学 1
34	袴田悠城	1:37:51	筑波大学 1
35	矢部謙太	1:39:28	東北大学 1
36	井上悟史	1:43:43	東京工業大学 1
37	乙部博章	1:45:19	東北大学 1
38	本多貴祐	1:45:46	名古屋大学 1
39	松本拓也	1:50:02	名古屋大学 1
40	尾崎公亮	1:53:47	岩手大学 1
	稲吉勇人	2:00:56	名古屋大学 1
	秋山周平	2:00:57	大阪大学 1
	秦大樹	2:24:58	東京大学 1
	笠井陽介	2:30:20	慶應義塾大学 1
	片山世斗	3:10:33	名古屋大学 1
	足立将城	3:46:49	名古屋大学 1
	荒井直幸	4:09:03	大阪大学 1
	村上拓哉	DISQ	千葉大学 1
	小田切勝也	DISQ	東京工業大学 1
	堀海斗	DISQ	金沢大学 1

## WUL1

1	五味あずさ	0:55:25	金沢大学 2
2	阿部ちひろ	0:58:34	大阪大学 2
3	荒井清美	0:59:33	金沢大学 2
4	山梨栞	1:02:56	金沢大学 2
5	富家遼子	1:04:17	横浜市立大学 4
6	小松陽子	1:04:33	筑波大学 2
7	藤未加子	1:09:14	椛山女学園大学 3
8	根岸真衣子	1:10:07	筑波大学 4
9	大関幸織	1:10:48	新潟大学 4
10	多田智美	1:11:48	岩手大学 3
11	大沼春香	1:17:15	宮城学院女子大学 3
12	鈴木彩心	1:17:31	東京農工大学 2
13	坂井あんず	1:18:30	京都大学 4
14	菊池健美	1:19:34	宮城学院女子大学 2
15	佐藤あかね	1:20:46	椛山女学園大学 2
16	野島貴子	1:20:50	京都女子大学 3
17	千葉史子	1:20:53	実践女子大学 2
18	池田佳世	1:21:00	椛山女学園大学 2
19	板倉理夏	1:21:20	十文字学園女子大学 3
20	田村美香	1:23:46	津田塾大学 3
21	魚住詩織	1:25:03	椛山女学園大学 4
22	上杉早有美	1:27:30	実践女子大学 2
23	石井萌子	1:35:32	実践女子大学 2
24	守屋好恵	1:38:43	実践女子大学 4
25	宮林里佳	1:39:43	京都女子大学 3
26	山本菜津美	1:47:16	宮城学院女子大学 3
27	岩瀬結衣	1:48:10	椛山女学園大学 2
28	横山莉沙	1:50:07	椛山女学園大学 2
29	筒井緑生	1:54:08	椛山女学園大学 4
30	藤井美樹	1:55:04	奈良女子大学 2
31	野田明里	1:55:13	椛山女学園大学 4
32	飯塚爽子	1:55:39	日本女子大学 3
33	宮田理紗	1:57:25	実践女子大学 4
34	井原梨衣奈	1:58:08	日本女子大学 2
	島田紀子	2:03:35	奈良女子大学 3
	澤口綾	2:19:15	宮城学院女子大学 3
	小島菜帆	2:22:20	椛山女学園大学 3
	杉浦春菜	2:29:23	椛山女学園大学 3
	平井はるな	2:30:09	千葉大学 2
	不破美沙	DISQ	新潟大学 2
	秋吉美里	DISQ	津田塾大学 4

## WUL2

1	小島優	1:02:42	椛山女学園大学 4
2	本間安莉	1:04:18	実践女子大学 3
3	犬塚千尋	1:07:34	津田塾大学 4
4	藤原智晴	1:10:43	実践女子大学 4
5	海福朋子	1:13:54	津田塾大学 2
6	野澤麻乃	1:15:21	金沢大学 3
7	豊澤香澄	1:15:31	相模女子大学 2
8	松岡里沙	1:15:53	金沢大学 3

9	宮田優花	1:16:29	筑波大学 2
9	神谷玲花	1:16:29	椛山女学園大学 2
11	伊東佑子	1:19:24	椛山女学園大学 2
12	中村由紀子	1:19:35	椛山女学園大学 4
13	名塚晴香	1:22:36	新潟大学 3
14	小野寺遥奈	1:24:38	宮城学院女子大学 4
15	西澤奈美	1:26:31	京都大学 2
16	平戸優美	1:27:09	実践女子大学 4
17	岡礼華	1:28:25	千葉大学 3
18	松井美音	1:31:18	京都女子大学 3
19	早野智音	1:33:43	日本女子大学 2
20	帖地藍	1:34:08	金沢大学 4
21	上野優	1:34:12	宮城学院女子大学 2
22	岩瀬万実	1:34:58	実践女子大学 2
23	近都有沙	1:37:22	奈良女子大学 3
24	佐藤望	1:38:34	十文字学園女子大学 3
25	井上望	1:40:42	一橋大学 2
26	林梨花	1:41:33	実践女子大学 4
27	熊野ひとみ	1:42:38	京都女子大学 3
28	大塚千夏子	1:42:44	東京農工大学 3
29	渡邊彩香	1:43:02	東北大学 4
30	横井里美	1:59:38	椛山女学園大学 2
	大橋朋未	2:08:14	日本女子大学 3
	田畑柚紀子	2:09:43	千葉大学 2
	千葉美玖	2:10:27	宮城学院女子大学 4
	福吉桜子	2:23:41	十文字学園女子大学 4
	萩原夏生	2:25:57	千葉大学 2
	氏家円佳	2:59:03	岩手県立大学 2
	井上アカリ	DISQ	椛山女学園大学 3
	星島志保	DISQ	椛山女学園大学 2
	三田育実	DISQ	名古屋大学 2
	大井綾	DISQ	京都女子大学 3
	鈴木梨紗	DISQ	椛山女学園大学 2

## WUS

1	今井香澄	0:40:10	実践女子大学 3
2	大貫美見佳	0:43:54	相模女子大学 2
3	菅野仁美	0:46:02	福島大学 2
4	佐々木菜摘	0:46:29	宮城学院女子大学 2
5	河越奈沙	0:49:59	東京工業大学 3
6	郷田侑希	0:51:04	奈良女子大学 2
7	関東夏樹	0:58:49	福島大学 2
8	下川千晴	0:59:56	奈良女子大学 2
9	今野夏好	0:59:59	宮城学院女子大学 2
10	阿部恭子	1:04:43	宮城学院女子大学 3
11	伴佳美	1:06:25	奈良女子大学 2
12	横戸歩美	1:07:52	実践女子大学 3
13	堀山えり	1:21:46	実践女子大学 3
14	後藤未帆	1:34:18	宮城学院女子大学 3
15	熊野恭子	1:52:03	津田塾大学 2
	中野江里沙	DISQ	京都女子大学 2
	黒木結花	DISQ	津田塾大学 2
	調歩美	DISQ	相模女子大学 2

八十島梓 DISQ 京都女子大学 3

## WUF1

1	大矢恵代	0:42:21	東京大学 1
2	中村葉菜	0:42:52	早稲田大学 1
3	吉岡梨花子	0:44:19	北海道大学 1
4	藤田麻矢	0:45:06	岩手大学 1
5	帯金未歩	0:45:37	大阪大学 1
6	田中圭	0:45:40	武蔵野大学 1
7	松島彩夏	0:46:41	立教大学 1
8	寺沢花	0:47:44	相模女子大学 1
9	木村史依	0:48:38	金沢大学 1
10	新井梨子	0:50:08	東北大学 1
11	小村彩葵	0:52:16	実践女子大学 1
12	直井萌香	0:52:29	筑波大学 1
13	山崎祐実	0:52:53	相模女子大学 1
14	保坂拡香	0:54:34	宮城学院女子大学 1
15	山田祐理子	0:56:13	奈良女子大学 1
16	佐藤祐香	1:00:20	京都大学 1
17	大山祐未	1:02:38	実践女子大学 1
18	有尾実紗	1:03:17	相模女子大学 1
19	佐藤奈緒子	1:04:13	京都女子大学 1
20	村上知里	1:05:00	東京大学 1
21	七夕あかり	1:06:20	千葉大学 1
22	門口実加	1:13:32	津田塾大学 1
23	大石真唯	1:16:27	宮城学院女子大学 1
24	東又みのり	1:21:13	京都女子大学 1
25	高橋有紀	1:22:48	椛山女学園大学 1
26	久保志穂子	1:23:15	椛山女学園大学 1
27	西村聖里奈	1:25:14	京都女子大学 1
28	曾根ちあき	1:25:49	相模女子大学 1
29	平渡友理	1:31:30	奈良女子大学 1
30	蔵並祥子	1:39:33	横浜市立大学 1
31	平野里奈	1:46:23	椛山女学園大学 1
32	竹内美樹	1:52:38	椛山女学園大学 1
	門井茉莉子	2:36:33	十文字学園女子大学 1
	曾木泉美	2:38:33	椛山女学園大学 1
	中山静来	DISQ	茨城大学 1
	中島希実	DISQ	椛山女学園大学 1
	綿貫加奈子	DISQ	実践女子大学 1
	森田桜織	DISQ	横浜市立大学 1
	久保実穂子	DISQ	椛山女学園大学 1
	星萌華	DISQ	宮城学院女子大学 1
	田代あゆ美	DISQ	東京農工大学 1
	加藤有祐子	DISQ	金沢大学 1
	稲垣智子	DISQ	京都大学 1

## WUF2

1	本間実季	0:34:12	東北大学 1
2	小野澤清楓	0:36:55	群馬大学 1
3	平川百佳	0:40:02	北里大学 1
4	尾形奈津季	0:40:33	宮城学院女子大学 1

5	増田七彩	0:43:47	東京大学 1
6	川島実紗	0:44:04	名古屋大学 1
7	西方美羽	0:44:35	北海道大学 1
8	土田美和	0:44:40	横浜市立大学 1
9	針生佳奈	0:47:04	宮城学院女子大学 1
10	岩井真恵美	0:50:04	宮城学院女子大学 1
11	斎藤里紗	0:50:51	岩手大学 1
12	中口典子	0:51:07	京都女子大学 1
13	平入麻衣	0:52:05	横浜市立大学 1
14	鈴木明日香	0:52:55	宮城学院女子大学 1
15	熊野谿真帆	0:55:18	金沢大学 1
16	井上可南	0:58:48	奈良女子大学 1
17	竹之内里咲	1:00:16	津田塾大学 1
18	吉田有希	1:02:17	京都女子大学 1
19	田中なみ	1:02:18	椙山女学園大学 1
20	村上莉沙	1:03:07	津田塾大学 1
21	小川茉乃	1:03:55	茨城大学 1
22	土池佳那	1:04:34	実践女子大学 1
23	石神愛海	1:04:41	実践女子大学 1
24	大友花菜子	1:04:51	宮城学院女子大学 1
25	但木香澄	1:15:55	椙山女学園大学 1
26	林奈々	1:16:53	相模女子大学 1
27	和田郁佳	1:24:33	実践女子大学 1
28	田中美徳	1:26:04	相模女子大学 1
29	小谷麻緒	1:30:18	奈良女子大学 1
30	稲垣亜希乃	1:38:43	東京農工大学 1
31	奥井愛生	1:42:09	椙山女学園大学 1
32	黒宮綾子	1:45:00	椙山女学園大学 1
33	伊藤希	1:46:02	椙山女学園大学 1
	小林佳奈	2:05:58	愛知淑徳大学 1
	武田いづみ	2:13:35	相模女子大学 1
	宇佐見里緒菜	DISQ	椙山女学園大学 1
	八重柏美緒	DISQ	千葉大学 1
	野田桃子	DISQ	大阪大学 1
	中居寿々子	DISQ	お茶の水女子大学 1
	石野陽子	DISQ	京都大学 1
	梶原裕希	DISQ	東京大学 1
	立目美栄	DISQ	東京農工大学 1
	鍛代瑠璃	DISQ	相模女子大学 1
	山本賀奈子	DISQ	京都女子大学 1

## 7. 役員名簿

実行委員長	松澤 俊行
競技責任者	西村 徳真 (NishiPRO)
渉外責任者	小泉 成行 (O-Support)
コースプランナー	木村 洋介
計算センターチーフ	大場 隆夫
演出チーフ	小林 遼
救護チーフ	八神 遥介
受付チーフ	船橋 昭一
スタートチーフ	前田 裕太
スタートサブチーフ	山本 紗穂里
資材担当	久保井 輝政
イベントアドバイザー	田濃 邦彦
地図印刷	山川 克則 ((有)ヤマカワオーエンタープライズ)

役員	赤地 祐彦	内藤 愉孝	三井 由美	尾上 秀雄
	南部 三王	寺岡 倫子	長縄 知晃	飯島 誠
	太田 貴大	石塚 脩之	燧 暁彦	影山 奨
	小柳 優紀	高橋 明美	高村 卓	櫻坂 尚
	和久田 好秀	鳥羽 都子		

特別協力	長谷川 望(東海高校)
	稲森 剛(東海高校)
	松田 悠太郎(東海中学校)
	宮嶋 大輔(東海中学校)
	熊田 悠人(東海中学校)
	中村 郁(東海中学校)
	小林 博文((株)日本旅行)
	滝 正晴
	津島 直樹
	井村 一乃

(以上、順不同)